令和８年度入学生用

１年次（令和８年度開講）

履　修　要　項

(syllabus)

生 活 科 学 科

食物栄養学専攻

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

令和8年度入学生　教 育 課 程

別表　第2　生活科学科　食物栄養学専攻教育課程表

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
一般教養科目		**わたしを知る・わたしを創る**								
		心と思想の探求（人間の心に迫り人間を知る）								
	7	日本語表現の基礎	講　義		2	2	2			
	9	倫　理　学	講　義		2	2	2			
	11	心　理　学	講　義		2	2	2			
		健康の探求（健康な心と体をつくる）								
		体育講義	講　義		1			1		
		体育実技	実　技		1			1		
		社会を知る・社会につながる								
		社会の探求（社会に目を向ける）								
	13	社　会　学	講　義		2	2	2			
	15	日本国憲法	講　義		2	2	2			
	19	歴　史　学	講　義		2	2	2			
		食と地域の未来デザイン	演　習		1				1	栄養士免必修
	21	総合教養Ⅰ	講　義		2	2				
	23	総合教養Ⅱ	講　義		2		2			
	25	AI社会論　○	講　義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
		キャリアの探求（職業を考え人生を設計する）								
	27	キャリアガイダンスⅠ	演　習	1			1			
		キャリアガイダンスⅡ	演　習	1				1		
		世界を知る・世界を広げる								
		異文化の探求（海外に目を向ける）								
	29	海外事情	演　習		2		2			海外研修
	31	公共人類学	講　義		2	2	2			
	33	英語の文学とメディア	講　義		2	2	2			
	25	アメリカ文学	講　義		2	2	2			
	27	英語演習Ⅰ	演　習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修
	41	中国語演習Ⅰ	演　習			2				
	43	韓国語演習Ⅰ	演　習			2				
		日本語演習Ⅰ	演　習			2				
	47	英語演習Ⅱ	演　習	2			2			＊日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5　留学生特別科目教育課程表
	51	中国語演習Ⅱ	演　習				2			
	53	韓国語演習Ⅱ	演　習				2			
		日本語演習Ⅱ	演　習				2			
		自然界の探求（いろいろな世界に目を向ける）								
	57	数学基礎	講　義		2	2	2			
	59	理科基礎	講　義		2	2	2			
	61	分子からみた生物	講　義		2	2	2			
	63	SDGs論	演　習		2		2			
	65	データサイエンス概論　○	講　義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
		データサイエンス演習　◎	演　習		2			2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修
		AIプログラミング　◎	演　習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修
最低修得単位数				6	8					
卒業最低修得単位数　14										

注:　○から1科目選択必修（デジタル教育プログラム）
　　◎から1科目選択必修（デジタル教育プログラム・プラス）

区分		授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	栄養士履修単位数 必修	栄養士履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目		**社会生活と健康**										
		公衆衛生学	講義		2	2				2		
		社会福祉概論	講義		2	2					2	児童福祉を含む 栄養士免必修
		人体の構造と機能										
	69	解剖生理学Ⅰ	講義		2	2		2				
	71	解剖生理学Ⅱ	講義		2	2			2			
		解剖生理学実験 ☆	実験		1	1				1		栄養士免選択必修(☆)
		運動生理学	講義		1	1					1	
	73	疾病の成り立ち	講義		2	2			2			
	75	栄養生化学Ⅰ	講義	2		2		2				
	77	栄養生化学Ⅱ ◆	講義		2	2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		生化学実験 ☆	実験		1	1				1		栄養士免選択必修(☆)
		食品と衛生										
	79	食品学総論	講義	2		2		2				
	81	食品学各論◆	講義	2		2			2			食品加工学を含む こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	83	食品学実験 ☆	実験		1	1		1				栄養士免選択必修(☆)
	87	食品衛生学	講義		2	2		2				
	89	食品衛生学実験	実験		1	1			1			
		食品加工学実習 ☆	実習		1	1				1		栄養士免選択必修(☆)
		栄養と健康										
	91	栄養学総論	講義	2		2			2			
	93	応用栄養学 ◆	講義	2		2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	95	応用栄養学実習 ◆	実習		1	1			1			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	97	食事摂取基準･献立論	講義	2		2		2				
	99	献立作成演習	演習		1	1		1				
		臨床栄養学概論 ◆	講義		2	2				2		こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		臨床栄養学実習	実習		1	1				1		
		栄養の指導										
	101	栄養指導論Ⅰ	講義	2		2		2				栄養カウンセリング論含む
	103	栄養指導論Ⅱ ◆	講義		2	2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		栄養指導実習Ⅰ	実習		1	1				1		
		栄養指導実習Ⅱ	実習		1	1					1	
	105	公衆栄養学	講義	2		2			2			

☆の科目から3単位以上選択必修(栄養士免)

◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	履修方法 卒業履修単位数 選択	履修方法 栄養士履修単位数 必修	履修方法 栄養士履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	開講学期単位数 1後	開講学期単位数 2前	開講学期単位数 2後	備考
専門科目		**給食の運営**										
	107	給食管理◆	講義	2		2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		給食実務演習Ⅰ	演習		1	1				1		
		給食実務演習Ⅱ	演習		1	1					1	
		給食管理実習Ⅰ	実習		1	1				1		
		学外実習Ⅰ・Ⅱ指導	演習		1	1				1		
		給食管理実習(学外Ⅰ)	実習		2	2				2		＊学外実習(保育所、施設等)
		給食管理実習(学外Ⅱ)	実習		2		2			2		＊学外実習(保育所、施設、病院等)
		給食管理実習Ⅱ	実習		1	1					1	
	109	調理学	講義	2		2		2				
	111	調理学実習基礎	実験・実習		1	1		1				
	113	調理学実習Ⅰ	実習		1	1			1			
		調理学実習Ⅱ	実習		1	1				1		
		実践調理学実習◆	実習		1	1					1	こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		関連科目										
	115	栄養士導入教育	演習		1	1		1				
		食物アレルギー論◆◆	講義	1			1				1	◆◆こども食物アレルギー実務課程必修
		栄養士実力試験対策演習	演習		1		1				1	
		スポーツと栄養	演習		1		1				1	
		危機管理栄養演習	演習		1		1				1	
	117	くらしとお茶	講義		2		2	2				日本茶アドバイザー資格選択必修
	119	情報機器演習	演習	2		2		2				
最低修得単位数				23	25	62	0					

卒業最低修得単位数　必修 23　選択 25　合計 48

最低修得単位数総計　卒業 62　[栄養士 76]

注:　◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

◆◆こども食物アレルギー実務課程必修科目

別表　第2の2 こども食物アレルギー実務課程関連科目
（〇印は一般教養科目及び専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	履修方法 履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	開講学期単位数 1後	開講学期単位数 2前	開講学期単位数 2後	備考
	〇食物アレルギー論	演習	1					1	
(77)	〇栄養生化学Ⅱ	講義		2		2			1単位以上
(81)	〇食品学各論	講義		2		2			
(93)	〇応用栄養学	講義		2		2			
(95)	〇応用栄養学実習	実習		1		1			
	〇臨床栄養学概論	講義		2			2		
(103)	〇栄養指導論Ⅱ	講義		2		2			
(107)	〇給食管理	講義		2		2			
	〇実践調理学実習	実習		1				1	
	最低修得単位数		1	1					

一般教養科目

科目名	日本語表現の基礎	**科目ナンバー**	**AA021201**
担当者	小沢　貴雄		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	漢字や語彙、丁寧な字の書き方、敬語、手紙文のきまりなどの社会生活を送る上で必須の書く力の育成と、縮約、情報の正確な読み取り、レポートのきまりなどの学生生活を送る上で必要となる書く力の育成を目指す。			
授業の到達目標	1. 基礎的な語彙力・漢字力を身につける 2. 失礼なのない形式の整った手紙文を作成できる 3. 根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス　自己紹介文の作成と交流	小沢
第2回	改まった話し方	小沢
第3回	敬語・敬意表現	小沢
第4回	敬語を使って話す 敬語を使って書く	小沢
第5回	主張・意見を的確に述べる	小沢
第6回	反論の仕方	小沢
第7回	アサーションスキル	小沢
第8回	漢字かな交じり文	小沢
第9回	句読点のはたらき	小沢
第10回	和語・漢語・外来語	小沢
第11回	言葉のグループ	小沢
第12回	話し言葉と書き言葉	小沢
第13回	別の言い方	小沢
第14回	手紙文 E-mail文	小沢
第15回	引用（根拠と出典）	小沢

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	中学校，高等学校，特別支援学校で国語科教員として指導していた経験を有し，高等学校までの内容を踏まえ，社会人としてふさわしい国語・言葉の力を身に付けられるよう，指導することができる。		
事前学習	新聞、雑誌、ネット記事などで、自分の興味関心に沿う情報を集めておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容の振り返りと作成した文章の推敲をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課した課題について、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	火曜日～金曜日の２コマ目（10：50～12：20）　研究室(西館405号室)		

テキスト	『日本語表現＆コミュニケーション　改訂版　社会を生きるための22のワーク』 石塚修　他，2022，￥1,320
参考文献等	『大学生のためのレポート・論文術』　小笠原善康　講談社　2009　￥740　(ISBN-10: 4062880210)
成績評価基準	最終レポートにおいて、根拠を明確にした説得力のあるレポートを作成できること。
成績評価の方法	課題レポート(60%) 授業内課題(20%) リフレクション等(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。60名までの受講制限を設けます。

科目名	倫理学	**科目ナンバー**	**AA011201**
担当者	村若　修		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「倫理学」とは、人の生き方や人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善/悪、正/不正という視点で考えていく学問です。「道徳」ないし「倫理」はすでに皆さんに身についているものですが、それについて倫理学は反省を加え、吟味する学問だと考えてください。本講義では「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療に関する倫理問題について考えていきます。			
授業の到達目標	1. 倫理学的な思考を身につける　2. 「生命倫理」の基礎を理解する　3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを表現できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	倫理学と「生命倫理」	村若
第2回	生命倫理の成立(1)患者の権利	村若
第3回	生命倫理の成立(2)インフォームド・コンセントの歴史	村若
第4回	生命倫理の成立(3)生命倫理の基本原則	村若
第5回	尊厳死(1)日本及び世界の状況	村若
第6回	尊厳死(2)倫理学的考察	村若
第7回	安楽死(1)日本及び世界の状況	村若
第8回	安楽死(2)倫理学的考察ディスカッション	村若
第9回	人工妊娠中絶	村若
第10回	生殖補助医療技術の利用(1)日本及び世界の状況	村若
第11回	生殖補助医療技術の利用(2)倫理学的考察	村若
第12回	出生前診断(1)日本及び世界の状況	村若
第13回	出生前診断(2)倫理学的考察ディスカッション	村若
第14回	脳死と臓器移植(1)日本及び世界の状況	村若
第15回	脳死と臓器移植(2)倫理学的考察	村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	配付資料を事前によく読んでくる	学習合計時間(h)	30
事後学習	映像教材について感想文を課す	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	ミニッツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニッツペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。		
オフィスアワー	火曜日15:00～17:00 研究室(西館410号室)		

テキスト	適宜資料を配付する。
参考文献等	『現代世界の思想的課題』　中山愈編　弘文堂　1998年　(ISBN4-335-15041-5)『はじめて出会う生命倫理』　玉井真理子・大谷いづみ編　有斐閣アルマ　2011年　(ISBN978-4-641-12420-2)
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	期末試験(80%)、授業内容に関する小レポート・感想文(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	心理学	**科目ナンバー**	**AA021202**
担当者	園田　美保		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	心理学の主な領域を網羅する。より深い人間理解のために心理学のキーワードと考え方を紹介する。ここでの人間とは、受講者自身を含み、その点では受講者にとって自己を探る手がかりを提供する。また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとなるよう、受講者が心理学の各領域や方法に触れ、学びながら、考える力も身に付けられるよう、授業を構成する。講義形式だが、受講者には、積極的に自らの日常生活や身近な他者を想定し、内容の理解を行い、自らの考えを表現してもらうため、各回の内容に即したレポートを毎回求める。			
授業の到達目標	（1）人間の心理と行動との関係を理解する。　（2）自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる。　（3）他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解、表現できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	「心理学」オリエンテーション：授業の形式、内容と計画、心理学イントロ「心理学とは？」	園田
第2回	心理学の研究方法と領域：心理学の方法論と人が人をを見るまなざし、心理学の領域いろいろ	園田
第3回	心理学の歴史と多様な考え方：心理学の始まり、当初からあって今でも影響力の強い考え方3種	園田
第4回	動機づけ：動機づけ説の各種紹介、動機のヒエラルキー、動機づけを高める方法	園田
第5回	情動：情動の発達、種類、表出、表情コントロール、気分障害	園田
第6回	認知：私たちは環境をどのように知るのか？　感覚、知覚、認知の特性	園田
第7回	学習：人間の行動が作られるしくみとは？　試行錯誤と洞察、条件づけによる学習	園田
第8回	知能：知能の構造、発達曲線、遺伝か環境か？、創造性を発揮する思考法	園田
第9回	パーソナリティ：特徴の捉え方：類型論と特性論、人格の形成要因、性格の測定法	園田
第10回	適応：人間を環境との関わりで考えてみると？　不適応反応、ストレス、防衛機制	園田
第11回	社会と人間1：集団とは、集団から個人への影響	園田
第12回	社会と人間2：個人や少数者が集団に与える影響：少数意見が通る時／リーダーシップ論	園田
第13回	臨床の心理学1：心理的問題、心の傷と心の病、5つのレベルの異常反応の症状理解	園田
第14回	臨床の心理学2：心理療法のアプローチ四者四様；精神分析/行動療法/クライアント中心療法/家族療法	園田
第15回	総括・補足、振り返り：「心理学」全体の振り返り	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指定されたテキストの章や箇所を事前に読んでおく。	学習合計時間(h)	50
事後学習	・各回の授業からキーワードになる言葉や概念を5語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める	学習合計時間(h)	10
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーに対応する。メールで時間調整できた場合も対応可能。		
オフィスアワー	（前期）水曜日 16:20～17:20 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。		

テキスト	『新しい心理学ゼミナール: 基礎から応用まで』藤田　主一・板垣　文彦（編著）　福村出版　2008年　2,200円(税抜き)　ISBN:978-4571200724
参考文献等	『心理学 新版 (New Liberal Arts Selection)』　無藤隆ら(編著)　有斐閣　2018年　4200円(税抜き)　(ISBN: 978-4641053861)『誠信 心理学辞典[新版]』　下山晴彦ら(編著)　誠信書房　2014年　5800円(税抜き)　(ISBN: 978-4414305071)　他、各回ごとに配布資料で提示
成績評価基準	心理学の領域ごとに、各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考え、キーワードを使用し表現できるものを合格とする。
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	・前期は、全学科合わせて80名の受講制限を設ける(受講登録者が80名を超えた場合は、抽選を行う)。ただし、教室の収容人数によってそれ以下になる場合もある。

科目名	社会学	**科目ナンバー**	**AA041201**
担当者	倉重　加代		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：実践キャリア実務士、プレゼンテーション実務士		

授業の概要	個々人が抱えている心理的・経済的等の悩みは思いのほか社会の諸現象や諸問題と関わっていることが多い。この授業では、社会を前向きに描く上で求められる力――社会を学ぶ社会学的思考を磨き、現在の社会の仕組みと流れを冷静に見据える力――を身につけることを目指す。そのために授業の前半では社会学の基礎概念の学習を通して、後半では現代社会の分析を試みながら、社会学的な思考を身につける授業を行う。			
授業の到達目標	1.社会学の基礎概念を理解する　2.人々の行為や社会で起こっている出来事を、自分から離れて見る視点を身につける 3.自分の関心事と社会で起こっている出来事を結びつける能力を身につける			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○		◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	「社会学すること」の視点を理解する	倉重
第2回	社会学の方法を学ぶ	倉重
第3回	友だちとはどのような人かを考える	倉重
第4回	親密な関係のゆくえについて学ぶ	倉重
第5回	生き方のイメージ形成について考える	倉重
第6回	教育と職業の関係から生き方を考える	倉重
第7回	地域社会の状況について理解する	倉重
第8回	地域社会の将来を考える	倉重
第9回	ジェンダー視点での社会の見方を理解する	倉重
第10回	ジェンダーのゆくえを考える	倉重
第11回	国家の福祉政策と私の人生の関係について学ぶ	倉重
第12回	福祉社会のあり方について学ぶ	倉重
第13回	出来事の予測可能性と予測不可能性について比較する	倉重
第14回	リスク社会での対処について学ぶ	倉重
第15回	授業の総括と意見交換	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つ。また、自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておくこと。教科書を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	期末試験のために授業内容の総復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	火曜日16:30～18:00　研究室(西館312号室)		

テキスト	『Do! ソシオロジー――現代日本を社会学で診る〔改訂版〕』　友枝敏雄・山田真茂留編　2013年　1,800円（税抜き）　(ISBN 978-4-641-12496-7)
参考文献等	『自由からの逃走』フロム, E.著　日高六郎訳　東京創元社 1951年　1,870円　(ISBN：978-4-488-00651-8)『定本　想像の共同体』ベネディクト・アンダーソン著　白石隆・白石さや訳　書籍工房早山　2007年　2,200円　(ISBN：978-4-904701-08-9)総務省統計局ホームページ　ほ
成績評価基準	到達目標の1.～3.は相互に関連し、1.や2.を身につけることにより、3.に掲げている事項の理解を深めることができることから、到達目標の3.「人々の間に共有される意味や形式の相対性」を理解することを成績評価基準とする。
成績評価の方法	期末試験(80%)と毎時間のリアクションペーパー(20%)で評価する。(期末試験はレポートで代替する場合がある)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	日本国憲法	**科目ナンバー**	**AA041202**
担当者	担当者未定		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	日本国憲法		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	・立憲主義、公共の福祉という現代憲法学における２大概念の理解を目的に、日本国憲法の須要条項について解説してゆく。|・日本国憲法の各条項が、日々のわたしたちの暮らしにどのように関わり合っているのか、を重要判例をとおし考察する。			
授業の到達目標	・日本国憲法に関する基本知識を身につけている。|・立憲主義理念に依拠する現代憲法の意義・役割を日々の生活との関連において説明できる。|・社会における諸課題解決のための方策を、憲法を軸に構想することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	鴎州憲政史にみる自由権の確立	未定
第2回	人権の諸相－自由権・社会権・参政権・請求権－	未定
第3回	日本国憲法の構造	未定
第4回	立法府（国会）の権能	未定
第5回	行政府（内閣）の権能と内閣総理大臣の権限	未定
第6回	司法府（裁判所）の権能と違憲立法審査制	未定
第7回	中間まとめ（討論）	未定
第8回	人権の享有主体	未定
第9回	私人間における憲法効－３つの判例より－	未定
第10回	精神的自由権－表現の自由・信教の自由－	未定
第11回	幸福追求権－憲法13条の可能性－	未定
第12回	経済的自由権とその規制法理	未定
第13回	生存権と生活保護法	未定
第14回	子どもの発達と教育権	未定
第15回	憲法改正の論点	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストの授業予定箇所を読み込み、不明部分は資料等を検索し調べておくこと。|	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取組むこと。配布されたレジュメの確認問題を繰り返し解くこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題または確認問題（公務員試験対策も兼ねる）にたいする解答例の配布または解説をとおし、知識・理解の整理を図る。		
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。		
オフィスアワー	授業の前後講義室		

テキスト	『教職のための憲法』　斎藤一久ほか編著　ミネルヴァ書房　2020年　2000円　（ISBN：978 - 4 - 623-08935-2）
参考文献等	
成績評価基準	立憲主義と公共の福祉の各概念の的確な把握のうえに、日本国憲法における重要条文の内容・意義を理解している。
成績評価の方法	定期試験（90%）、受講意欲・態度等（10%）。なお、再試は1回にかぎり実施する。
ＧＰＡ基準	
備考	シラバスの内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。学生証不携帯による出席確認未了者は欠席扱いとします。

科目名	日本国憲法	**科目ナンバー**	**AA041202**
担当者	宇都　義和		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	日本国憲法		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	・日本国憲法の人権と統治機構に関する基本的な内容を教職の業務に関連づけながら説明していきます。また教職に限らず憲法の規定が私たちの日々の生活とどのような関わりをもち、重要な人権問題が生じたとき、その規定にもとづきどのような判断が裁判所によってなされるのかについても解説します。
授業の到達目標	・日本国憲法が定めた人権ならびに統治に関する基本的知識を身につけている。・憲法の今日的な意義や役割を説明することができる。・こどもや生徒に関する人権の保護規定を理解して、それをふまえた対応を考えることができる。

ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				○

※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス、憲法の歴史、教職と憲法の関係（人権への理解と主権者教育）	宇都
第2回	個人の尊厳と人権（校則と生徒の人権）	宇都
第3回	学校にいる人の権利と義務（生徒、教員の権利と義務）	宇都
第4回	平等権（学校と差別、障害者への配慮）	宇都
第5回	思想・良心の自由（教育現場における思想・良心の問題）	宇都
第6回	信教の自由（体育科目と信教の自由との対立）	宇都
第7回	表現の自由（検閲の禁止とネット上の誹謗中傷問題）	宇都
第8回	学問の自由（学習指導要領の法的拘束力と教育内容の自由）	宇都
第9回	教育を受ける権利（保護者の義務、教科書訴訟）	宇都
第10回	経済的自由（職業選択の自由に対する規制）	宇都
第11回	生存権（生活保護、障害年金に関する訴訟）	宇都
第12回	国民主権と参政権（選挙権、被選挙権、一票の格差問題）	宇都
第13回	平和主義（９条の意味、集団的自衛権）	宇都
第14回	統治（立法、司法、行政、三権分立）	宇都
第15回	地方自治（地方自治の本旨、条例制定権）	宇都

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストの授業予定範囲を読み込み、自分が目指す資格とのどのような繋がりがあるのかを把握しておいてください。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中・後に提示された課題研究に取組むこと。配布されたレジュメの重要箇所を自分なりに説明できるように復習すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	前の授業で提示した課題の解説を次の授業の冒頭で行います。		
質問・相談方法	この授業の時間にのみ来学する非常勤講師であるため、原則として授業の後にのみ受付けます。		
オフィスアワー	非常勤講師のためありません。		

テキスト	『教職課程のための憲法入門（第3版）』　西原博史ほか編著　弘文堂 2024年　2200円＋税　（ISBN：978-4-335-35979-8）
参考文献等	
成績評価基準	主要な人権規定の内容と統治機構に関する基本的な知識を身につけており、自分の言葉でなおかつ論証を意識した論述の回答ができること。
成績評価の方法	論述式定期試験（100%）。なお、再試は1回にかぎり実施する。また、所定の出席数に満たない場合は失格とします。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	歴史学	**科目ナンバー**	**AA041203**
担当者	松﨑　康弘		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げ、討論等も行う。			
授業の到達目標	1．民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する2．過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす3．歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	地名研究と歴史1(地名研究の動向)	松﨑
第2回	地名研究と歴史2(鹿児島における地名と歴史)	松﨑
第3回	地名研究と歴史3(沖縄等における地名と歴史)	松﨑
第4回	歌から読み取る地域の歴史	松﨑
第5回	テレビ番組から読み取る地域の歴史	松﨑
第6回	妖怪研究と歴史1(研究の視点)	松﨑
第7回	妖怪研究と歴史2(映画から読み取る歴史)	松﨑
第8回	妖怪研究と歴史3(妖怪から読み取る社会史)	松﨑
第9回	妖怪研究と歴史4(妖怪研究とこれからの社会)	松﨑
第10回	生活研究と歴史1(死をめぐる文化1：葬儀の文化)	松﨑
第11回	生活研究と歴史2(死をめぐる文化2：「メメント・モリ」)	松﨑
第12回	生活研究と歴史3(恋愛・結婚をめぐる文化)	松﨑
第13回	生活研究と歴史4(伝統芸能)	松﨑
第14回	生活研究と歴史5(食の歴史)	松﨑
第15回	まとめ(自らの生活と結びつく歴史)	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	(持っていれば中学校・高校の歴史・日本史教科書を使って)基礎的な日本史の知識を確認しておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	定期試験のために復習するとともに、授業で紹介した以外の(自分の居住地域に即した)素材を探す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『地名の魅力』　谷川彰英　白水社　2002年『妖怪文化入門』　小松和彦　せりか書房　2006年　ほか
成績評価基準	・授業内容に即して歴史学の方法を理解していること。　・授業をもとに自己や社会の在り方を自分なりに考えていること。
成績評価の方法	定期試験(100%) レポートで代替する場合がある
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	総合教養Ⅰ	**科目ナンバー**	**AA011006**
担当者	松下　大作		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	正しい言葉の使い方や広い知識を身につける。社会人として必要な基礎的教養と広い視野持った合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。			
授業の到達目標	(1)正しい漢字の利用や言葉の知識を身につける。(2)SPIの数学分野で基本的かつ頻出問題にふれることによって、柔軟な思考力を身につけ、今後の勉強法を確立させる。(3)基礎的な地理・歴史の知識を身につける。(4)現代社会の政治や経済の流れを理解できている。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション　国語1(間違いの多い漢字の読み・書き)	松下
第2回	国語2(類義語・反対語)	松下
第3回	国語3(四字熟語・敬語の正しい利用)	松下
第4回	国語4(ことわざ・慣用句・故事成語)	松下
第5回	判断推理(SPI対策)	松下
第6回	数的推理(SPI対策)	松下
第7回	地理1(日本地理)	松下
第8回	地理2(世界地理)	松下
第9回	歴史1(日本史)	松下
第10回	歴史2(世界史)	松下
第11回	政治・経済1(政治の流れ)	松下
第12回	政治・経済2(消費生活)	松下
第13回	政治・経済3(政治の流れ)	松下
第14回	総合演習1	松下
第15回	総合演習2	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	大学や専門学校等で40年の教養や面接指導経験を活かし，社会人としての必要な基礎知識を養う。		
事前学習	新聞やニュース番組を毎日見る。(15時間)　高校の教科書を読む。持っていない教科は友人等から譲り受ける(30時間)	学習合計時間(h)	45
事後学習	既受講内容について復習し，次回の確認テストに備える。(15時間)	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の確認テストを実施する。		
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。		
オフィスアワー			

テキスト	授業毎に必要な資料を配布。
参考文献等	随時紹介する
成績評価基準	正しい表現力が身についている。基礎的な知識や思考力が理解できている。
成績評価の方法	授業参加度50%　確認テスト20%　定期試験30%
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	総合教養Ⅱ	**科目ナンバー**	**AA012007**
担当者	松下　大作		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	正しい言葉の使い方や広い知識を身につける。社会人として必要な基礎的教養と広い視野持った合理的な思考力を養う。就職試験や公務員採用試験、教員採用試験等においても求められる内容も含む。就職において，面接や小論文対策としての自己分析や自己PR・人物重視の模擬対策など実践力を養う。
授業の到達目標	(1)正しい漢字の利用や言葉の知識を身につける。(2)SPIの数学分野で基本的かつ頻出問題にふれることによって、柔軟な思考力を身につけ、今後の勉強法を確立させる。(3)基礎的な地理・歴史の知識，現代社会の政治や経済の流れを理解できている。(4)自己分析が確立され，それをもとに自己PRが行うことができる。

ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション　国語5(よく出題される漢字の読み・書き)	松下
第2回	国語6(言葉の意味，外来語)	松下
第3回	国語7(論説文の重要語)	松下
第4回	判断推理２(SPI対策)	松下
第5回	数的推理２(SPI対策)	松下
第6回	地理3(日本地理・世界地理)	松下
第7回	歴史3(日本史・世界史)	松下
第8回	政治・経済4(政治の流れ)	松下
第9回	政治・経済5(経済の流れ)	松下
第10回	採用試験の流れ(公務員・民間企業)日程試験内容等	松下
第11回	人物対策1(自己分析・自己PR)	松下
第12回	人物対策2(エントリーシート・面接カードの作成)	松下
第13回	人物対策3(模擬面接・面接対策)	松下
第14回	総合演習3	松下
第15回	総合演習4	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	大学や専門学校等で40年の教養や面接指導経験を活かし，社会人としての必要な基礎知識を養う。5000人を超える面接指導経験をもとに採用面接に対する実践力を養う。		
事前学習	新聞やニュース番組を毎日みる。(15時間)　高校の教科書を読む。持っていない教科は友人等から譲り受ける(30時間)	学習合計時間(h)	45
事後学習	既受講内容について復習し，次回の確認テストに備える。(15時間)	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業の始まりに前回の授業内容の確認テストを実施する。		
質問・相談方法	授業の終わりに質疑応答の時間を設ける。		
オフィスアワー			

テキスト	授業毎に必要な資料を配布。
参考文献等	随時紹介する
成績評価基準	正しい表現力が身についている。基礎的な知識や思考力が理解できている。　自己分析をもとに自己PRが行うことができる。
成績評価の方法	授業参加度50%　確認テスト20%　定期試験30%
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	AI社会論	**科目ナンバー**	**AA041204**
担当者	村田　和也		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	「AI社会論」ではAIとは何か、現在の諸企業が取り組んでいる具体的事例について学ぶ。DXの必要性や、今後の将来性、問題点を総合的に俯瞰し、実社会に出てから役立つ知識を体得する。また今日におけるAI等のデジタルツールが及ぼす社会的影響に関しても学ぶ。特に、人工知能の特性や多様な側面を知ることで、今後代替されていく将来の職業や求められる人材に関しても考える。また、いくつかの講義では、PCやスマートフォンから学生の質問や意見をリアルタイムで収集することによって、双方向のコミュニケーションをとり、受講者の関心や理解度に応じた講義を行う。			
授業の到達目標	1. DXとは何か、概念や役割、重要性を理解する。2. AIの歴史的側面や得意分野や課題を理解する。 3. 現在使われているAIツールや普及しているBIツールに関して自分の意見を述べられる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	村田|
第2回	コンピューターとITに関する基礎知識	村田
第3回	産業構造の変化とICT	村田
第4回	BIツールとその普及率	村田
第5回	AIとは何か、事例1(エキスパートシステム、遺伝的アルゴリズム)	村田
第6回	AIとは何か、事例2(機械学習と深層学習)	村田
第7回	AIのできないこと、人間の強み	村田
第8回	DXの概念、その影響や課題	村田
第9回	データ駆動型社会、データの重要性	村田
第10回	ビッグデータとクラウド	村田
第11回	ソーシャルメディアとパーソナルデータ	村田
第12回	AI時代おける個人情報、EUのGDPRを事例として	村田
第13回	AIコンテンツが生成するデジタルコンテンツ	村田
第14回	AI時代における人材と今後のキャリア	村田
第15回	授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIに関する研究経験を活かす。		
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月～木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「超AI入門ーディープラーニングはどこまで進化するのか」松尾豊(著)NHK出版 2019年 ¥1320 ISBN978-4140817711「Google Colaboratoryで学ぶ! あたらしい人工知能技術の教科書 機械学習・深層学習・強化学習で学ぶAIの基礎技術」我妻幸長(著)翔泳社 2021年 ¥3740 978-4798167206
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	キャリアガイダンスⅠ	**科目ナンバー**	**AS032002**
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	―		

授業の概要	本授業は、社会的・職業的自立に向けた基礎力を身に付けることを目的とし、自己理解を深めながら、将来の働き方や多様な職業について学ぶ。講義やワーク、振り返りを通して、自身の価値観や強み、関心を整理し、進路や生き方について主体的に考える力を養うとともに、今後の学修や学生生活を見通すための基盤を形成する。			
授業の到達目標	１．自己の価値観や関心を踏まえ、自身の将来の進路や生き方について主体的に考え、言語化することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	就職活動とは(就職活動のポイント、キャリアセンターの役割キャリタスの登録・利用方法)	A,B
第2回	自己分析による自己の理解を深めてみよう	A、B
第3回	インターンシップ（企業研究をしよう！、情報の集め方）	A,B
第4回	実習・就職等の情報収集、交換（１・２年生交流会）	A
第5回	履歴書の書き方（エントリーシートとは？）	A,B
第6回	履歴書を実際に書いてみよう	A
第7回	進路決定の道のりと卒後の進路について具体的に考える（2年生内定者講話）	A
第8回	卒後の進路と職業人としての使命を学ぶ。これまでの振り返りとまとめ。	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各回の授業テーマに関する資料や課題に目を通し、自己の経験や関心、価値観を振り返りながら、授業内のワークや討議に備える。	学習合計時間(h)	10
事後学習	授業での学びや気づきを振り返り、自己理解や職業理解を深めるとともに、レポートや振り返りシートの作成を通して、自身の進路や生き方について整理・言語化する。	学習合計時間(h)	20
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する。		
オフィスアワー	木曜日　14:50～16:20　各講義室（対応は主として指導教員）		

テキスト	必要に応じて資料を配布します。テキスト購入は特にありません。
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版　1,000円(税抜き）（ISBN-13: 978-4415035734）
成績評価基準	自己理解や職業理解に関する学修内容を踏まえ、自身の進路や生き方について主体的に考え、その内容をレポートや振り返り等で適切に表現できているかを評価する。
成績評価の方法	受講態度(20%)、レポート等の提出状況(80%)により、総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	A：専攻教員　B：キャリアセンター 掲示や振り返り課題等はUNIPAを使用して配信します。

科目名	海外事情	**科目ナンバー**	**AA042010**
担当者	黒川　太郎		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養うことを目的とするものです。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性を学習したのち、研修実施国及び時期は追って連絡します。履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う予定です。（令和8年度は令和9年3月台湾で実施予定）			
授業の到達目標	1．異文化に接し、異文化への理解を深める2．体験的に国際感覚を養う3．自らの専門分野について国際比較の観点から理解を深める			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	事前説明　海外研修の流れと実施国の国情	黒川
第2回	実施国の文化	黒川
第3回	実施国の歴史	引率教員
第4回	実施国の言葉	引率教員
第5回	実施国の食生活	引率教員
第6回	実施国の伝統文化	引率教員
第7回	実施国の教育事情	引率教員
第8回	実施国の観光施設訪問	引率教員
第9回	実施国の文化施設訪問	引率教員
第10回	実施国の教育機関訪問	引率教員
第11回	実施国の現地料理実習	引率教員
第12回	実施国の言語学習	引率教員
第13回	実施国の交流	引率教員
第14回	日本文化の紹介	引率教員
第15回	研修成果の発表	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	在外公館での勤務経験を活かし、外国でのトラブルを事前指導に盛り込む。		
事前学習	インターネットやニュース、書籍を通し、実施国に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める。	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習した内容をまとめ、発表する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	適宜、個人個人に直接コメントしてフィードバックする。		
質問・相談方法	オフィスアワーに研究室にて対応		
オフィスアワー	月15：00～16:00　　黒川研究室(西館307号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『地球の歩き方　ガイドブック　D10　台湾　2019年～2020年版』　ダイアモンド社　2019年　1700円(税抜き)　ISBN：978-4-478-82314-9(令和元年度)
成績評価基準	国際交流に関する視野の広がり国際理解に関する知見
成績評価の方法	研修中の活動(40%)　事前研修(40%)　レポート(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	1．参加学生数や研修実施国等の情勢により、開講されない可能性もある2．本科目に興味を持つ学生は、連絡等のため初回の履修登録時に履修登録をする(後日取消可能)3．初回の履修登録期間中に登録しない者は、原則として追加登録を認めない４．参加学生は事前研修（後期隔週実施）に

科目名	公共人類学	**科目ナンバー**	**AA041206**
担当者	岩切　朋彦		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	文化を通して人類とは何かを問う「文化人類学」は、これまでさまざまな理論を蓄積してきました。「公共人類学」は、そうした文化人類学の理論を、さまざまな社会問題を解決するための手段として応用させた学問です。「多文化共生」が叫ばれる現代において、公共人類学の理論と思考法は、多様化する社会を生き抜くために大いに役に立つものです。この講義では、文化を巡る多様な社会問題に焦点を当てつつ、人類学的に思考し実践するとはどういうことなのかを教授していきます。			
授業の到達目標	1. 公共人類学の成り立ちと目的について理解する2. 異文化を巡る問題について、自らの経験を踏まえて考え、意見を述べることができる。3. 多文化共生社会を実現していくためにはどのようにすべきか自分なりの考えを述べることができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○		○	◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	公共人類学とはなにか－イントロダクションとして	岩切
第2回	「グローカル化」する世界―グローバル化とローカル化	岩切
第3回	「多文化化」する日本と多文化共生政策	岩切
第4回	「働く留学生」と多文化共生	岩切
第5回	技能実習生を巡る諸問題	岩切
第6回	食の多様性と異食文化理解	岩切
第7回	食とアイデンティティの複雑な関係	岩切
第8回	文化と医療行為の関係性－医療人類学の基礎知識	岩切
第9回	多様な文化をまとった多様な身体－障害と公共人類学	岩切
第10回	性的マイノリティは「異常」ではないーセクシャリティとジェンダー	岩切
第11回	幻想としての「日本人」－国民国家とナショナリズム	岩切
第12回	植民地主義を乗り越えて－ポストコロニアルな世界状況	岩切
第13回	なぜ英語を勉強しなければならないのか－英語帝国主義論(ディスカッションあり)	岩切
第14回	宗教と民族を巡る紛争	岩切
第15回	講義のまとめ	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞やテレビなどのニュースをしっかりチェックする	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義で学んだ理論を周囲の人々に口頭で説明する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワー等で対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	金曜日　10：50～12：20　研究室(西館407号室)		

テキスト	特に使用しない。プリント配布、視聴覚教材
参考文献等	『公共人類学』東京大学出版会、2014　3200円(税抜)ISBN978-4-13-052305-9
成績評価基準	・講義で学んだ知識を日常生活で実践できること　・自然だと考えられていた文化が、人間によって構築されてきたものだということを理解できること
成績評価の方法	受講態度(20%)　試験(80%)
ＧＰＡ基準	
備考	授業で展開される議論に対する積極的な発言を歓迎します。受講態度の点数として加点します。私語等がひどい場合は減点します。

科目名	英語の文学とメディア	**科目ナンバー**	**AA011202**
担当者	担当者未定		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	この授業の目的は、様々な文学作品・メディア(映画、歌、新聞・雑誌など)に触れることで受講者の英語リテラシーを養うことです。授業は主に、1英語で書かれたり話されたりする内容について解釈を行ったり情報を読み取ったりする活動、2得られた知見を踏まえて行う日本語・英語での表現活動で構成されています。この授業を通して、受講者が様々な英語作品・表現に触れたり、それらを味わいながら豊かな教養を身に付けることを目指しています。			
授業の到達目標	1. 英文の訳読などの活動を通し、より優れた言語感覚を身に付ける。2. 英文の字義理解を超えた解釈を行う中で、より高い読解能力を身に付ける。3. 英文の解釈に基づいた議論や発表を通して、より高い表現力を身に付ける。4. 英語を用いた様々な作品に触れることによって、異文化感受性や国際的志向性を高める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション	未定
第2回	歌と詩	未定
第3回	漫画	未定
第4回	アニメ	未定
第5回	ジャーナル（読解）	未定
第6回	ジャーナル（議論）	未定
第7回	物語文（読解）	未定
第8回	物語文（解釈・議論）	未定
第9回	物語文（執筆）	未定
第10回	映画（視聴）	未定
第11回	映画（視聴・議論）	未定
第12回	映画（翻訳）	未定
第13回	プレゼンテーションの準備	未定
第14回	プレゼンテーション	未定
第15回	総括	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で使用する資料において、分からない単語等を調べてくる。教員からの指示がある場合、次回の授業で行う活動に必要な情報を調べたり、考えを整理したりする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容をふりかえり、学んだことを整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	小レポートに対し教員からのコメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後、またはオフィスアワーに対応する。		
オフィスアワー	授業の前後講義室		

テキスト	特になし(配布するハンドアウトを使用する。)
参考文献等	特になし
成績評価基準	1. 語のニュアンスや日本語・英語の違いを意識したり、解釈を行ったりしながら英文を読むことができること。2. 英文から得られた知見を基に、自分の解釈や考えなどを表現することができること。
成績評価の方法	プレゼンテーション(50%)、提出物(50%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	アメリカ文学	**科目ナンバー**	**AA041207**
担当者	担当者未定		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業では、アメリカの短編を3つ（ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」、シャーウッド・アンダーソン「手」、ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」）扱います。実際に作品を鑑賞し、作品に描かれる文化背景、歴史、性や人種などのテーマといった様々な角度から作品を読み解きます。また、作品に対する自分の解釈を考えてもらいます。			
授業の到達目標	1. アメリカの分化や社会背景を理解できる2. 作品を読み、自分の意見や作品の解釈を述べることができる3. 作品について学生同士でディスカッションできる			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○		◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	イントロダクション	未定
第2回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」1　ケイト・ショパンについて	未定
第3回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」2　アメリカ南部	未定
第4回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」3　奴隷制度	未定
第5回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」4　ショパンの描く女性	未定
第6回	ケイト・ショパン「デジレの赤ちゃん」5　物語の解釈	未定
第7回	シャーウッド・アンダーソン「手」1　シャーウッド・アンダーソンについて	未定
第8回	シャーウッド・アンダーソン「手」2　共同体	未定
第9回	シャーウッド・アンダーソン「手」3　物語の解釈	未定
第10回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」1　ウィリアム・フォークナーについて	未定
第11回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」2　南北戦争	未定
第12回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」3　南部と北部	未定
第13回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」4　フォークナーの描く女性	未定
第14回	ウィリアム・フォークナー「エミリーに薔薇を」5　物語の解釈	未定
第15回	総括、ディスカッション	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で扱う作品を前もって読んでおく	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義で学んだことを踏まえ、作品を再読する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業内で感想カードへのコメントを行う		
質問・相談方法	オフィスアワー、授業前後の時間、及び感想カードへのコメント		
オフィスアワー	授業の前後講義室		

テキスト	特になし
参考文献等	ケイト・ショパン『目覚め』宮北恵子, 吉岡恵子訳、南雲堂、2,800円(ISBN9784523292562)シャーウッド・アンダーソン『ワインズバーグ、オハイオ』上岡伸雄訳、新潮社、590円（ISBN9784102201510）ウィリアム・フォークナー『フォークナー短編集』龍口直太郎訳、新潮社、590円
成績評価基準	講義を聞き、作品への理解を深めること。また、それを踏まえた自分の意見が述べられること。
成績評価の方法	各回の提出物　50%　　期末レポート　50%
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目

科目名	英語演習Ⅰ	**科目ナンバー**	**AA021004**
担当者	中野　由美子		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2単位	**担当形態**	クラス分け
免許・資格情報	―		

授業の概要	四技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を習得する。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習する。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付ける。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになる。			
授業の到達目標	1.基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解する。 2.英語で読み聞きする内容を正しく理解する。 3.自分に関する情報や自分の身の回りのことを相手に英語で伝える。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple"①	中野
第2回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple"②	中野
第3回	Unit 2: What's the Boss Like?①	中野
第4回	Unit 2: What's the Boss Like?②	中野
第5回	Unit 3: Masa's First Day on the Job①	中野
第6回	Unit 3: Masa's First Day on the Job②	中野
第7回	Unit 4: Summer Fun①	中野
第8回	Unit 4: Summer Fun②	中野
第9回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction①	中野
第10回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction②	中野
第11回	Unit 6: Brainstorming①	中野
第12回	Unit 6: Brainstorming②	中野
第13回	Unit 7: Grad to Be of Service①	中野
第14回	Unit 7: Grad to Be of Service②	中野
第15回	Unit 8: Socializing with Co-Workers①	中野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回授業の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	20
事後学習	学習した語彙、文法、表現等を復習し、テキストの復習問題を解く。	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答の時間を設ける。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日12:30〜13:00 研究室(西館309号室)		

テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標を達成できること。
成績評価の方法	定期試験（60%）、授業に取り組む姿勢（40%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	英語演習Ⅰ	**科目ナンバー**	**AA021004**
担当者	井上　和彦		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	四技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を習得する。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習する。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付ける。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになる。			
授業の到達目標	1.基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解する。 2.英語で読み聞きする内容を正しく理解する。 3.自分に関する情報や自分の身の回りのことを相手に英語で伝える。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple"①	井上
第2回	Unit 1: Welcome to the "Big Apple"②	井上
第3回	Unit 2: What's the Boss Like?①	井上
第4回	Unit 2: What's the Boss Like?②	井上
第5回	Unit 3: Masa's First Day on the Job①	井上
第6回	Unit 3: Masa's First Day on the Job②	井上
第7回	Unit 4: Summer Fun①	井上
第8回	Unit 4: Summer Fun②	井上
第9回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction①	井上
第10回	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction②	井上
第11回	Unit 6: Brainstorming①	井上
第12回	Unit 6: Brainstorming②	井上
第13回	Unit 7: Grad to Be of Service①	井上
第14回	Unit 7: Grad to Be of Service②	井上
第15回	Unit 8: Socializing with Co-Workers①	井上

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回授業の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	20
事後学習	学習した語彙、文法、表現等を復習し、テキストの復習問題を解く。	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答の時間を設ける。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日12:30〜13:00 研究室(西館309号室)		

テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標を達成できること。
成績評価の方法	定期試験（60%）、授業に取り組む姿勢（40%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	中国語演習Ⅰ	科目ナンバー	AA021005
担当者	黒川　太郎		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	中国語初学者対象の授業です。簡単な挨拶表現、基本的な発音および文型を中心に教えます。日常生活で必要な語彙を身に付けることを目的に会話を中心とした授業を行います。毎回の授業では日本語との発音の違いに注意し、正確な発音の練習に時間を割き、授業の終わりには、受講者が中国語で自己紹介できることを目標とします。
授業の到達目標	1.中国語の発音に慣れ、ローマ字ピンインで書ける。2.中国語で自己紹介し、1～10の数を正確に言える。3.簡単な挨拶表現ができる。

ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連		◎		○

※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション：中国語について	黒川
第2回	第1課　挨拶(1)発音(声調・短母音)・ピンイン表記　「こんにちは」	黒川
第3回	第2課　挨拶(2)発音(子音・複合母音・鼻母音)　「お変わりありませんか」	黒川
第4回	第3課　挨拶(3)発音と簡単な挨拶表現　　「お仕事は忙しいですか」	黒川
第5回	発音の矯正　自分の名前の中国語音の確認	黒川
第6回	第4課　初めて会う(1)疑問文　　「お名前はなんとおっしゃいますか」	黒川
第7回	第5課　初めて会う(2)動詞述語文　　「ちょっとご紹介します」	黒川
第8回	第1課～第5課復習(自己紹介)【会話テスト】	黒川
第9回	第6課　尋ねる(1)名詞述語文　　「誕生日は何月何日ですか」	黒川
第10回	第7課　尋ねる(2)「有」文　　「ご家族は何人ですか」	黒川
第11回	第8課　尋ねる(3)時間の読み方　　「今何時ですか」	黒川
第12回	発音の矯正　疑問文の作り方	黒川
第13回	第9課　尋ねる(4)　連動文　「お住まいはどちらですか」	黒川
第14回	第10課　尋ねる(5)　方位詞　「郵便局はどこですか」	黒川
第15回	第6課～第10課復習(数を表す表現)【会話テスト】	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。・授業前後に新出単語の学習をする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・教科書付属のCDを聞き、中国語独特の発音とリズムを習得する。・授業前後に新出単語の学習をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。		
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応		
オフィスアワー	月曜日(前期)　13：00～17：00　黒川研究室(西館307号室)		

テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』　康玉華・来思平　語文研究社　2006年　1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	特になし
成績評価基準	ローマ字ピンインを正確に発音できること。自己紹介・簡単な挨拶表現ができること。
成績評価の方法	定期試験(50%)出席・遅刻などを含む受講態度を総合的に評価(30%)授業内で行う会話試験(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	韓国語演習Ⅰ	**科目ナンバー**	**AA021006**
担当者	鶴田　かおり		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2単位	**担当形態**	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)	鶴田
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)	鶴田
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)	鶴田
第4回	平音・激音・濃音、カギャ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)	鶴田
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)	鶴田
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)	鶴田
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)	鶴田
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)	鶴田
第9回	会話練習（決まり文句）、ハングル入力練習	鶴田
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第11回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第12回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第13回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第14回	今学期の学習のまとめ	鶴田
第15回	音読試験	鶴田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日　9:00-9:10、12:20-30(講義室)		

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN：9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	・受講希望者が5名以下の場合開講されません。・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント　外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加し

科目名	韓国語演習Ⅰ	科目ナンバー	AA021006
担当者	鄭 芝淑		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2単位	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	授業は教科書に基づいて学習するが、外国語の学習は知識にとどまるのではなく使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・ハングルを正しく確実に読み書きができる。・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。・基本的な日常の挨拶や簡単な自己紹介、会話をすることができる。・韓国・韓国文化に対する理解を深める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価基準など)、ハングルの構造、挨拶表現(人に出会ったとき)	鄭
第2回	母音字母、挨拶表現(初対面のとき)	鄭
第3回	子音字母、挨拶表現(久しぶりに会ったとき)	鄭
第4回	平音・激音・濃音、カギャ表、有声化、挨拶表現(人と別れるとき)	鄭
第5回	複合中声、終声(パッチム)、簡単な挨拶(お礼とその返答)	鄭
第6回	連音化、簡単な挨拶(お詫びとその返答)	鄭
第7回	仮名のハングル表記、音声変化、簡単な挨拶(お祝い)	鄭
第8回	文字と発音のまとめ、簡単な挨拶(その他)	鄭
第9回	会話練習（決まり文句）、ハングル入力練習	鄭
第10回	第1課(今、韓国に住んでいます)の本文解説と朗読練習、文法解説	鄭
第11回	第1課(今、韓国に住んでいます)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第12回	第2課(趣味は何ですか)の本文解説と朗読練習、文法解説	鄭
第13回	第2課(趣味は何ですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第14回	今学期の学習のまとめ	鄭
第15回	音読試験	鄭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日　9:00-9:10、12:20-30(講義室)		

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN：9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	・受講希望者が5名以下の場合開講されません。・韓国語を初めて学習する人が望ましい。受講者へのコメント　外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加し

科目名	英語演習 II	科目ナンバー	AA022009
担当者	井上　和彦		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	四技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を習得する。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習する。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付ける。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになる。
授業の到達目標	1.基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解する。 2.英語で読み聞きする内容を正しく理解する。 3.自分に関する情報や自分の身の回りのことを相手に英語で伝える。

ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	Unit 8: Socializing with Co-Workers②	井上
第2回	Unit 9: Vacation Spots①	井上
第3回	Unit 9: Vacation Spots②	井上
第4回	Unit 10: Sports Talk①	井上
第5回	Unit 10: Sports Talk②	井上
第6回	Unit 11: Tour Day①	井上
第7回	Unit 11: Tour Day②	井上
第8回	Unit 12: Party Time!①	井上
第9回	Unit 12: Party Time!②	井上
第10回	Unit 13: Office Meeting①	井上
第11回	Unit 13: Office Meeting②	井上
第12回	Unit 14: A Bit of History①	井上
第13回	Unit 14: A Bit of History②	井上
第14回	Unit 15: Farewell, Masa and Lucy①	井上
第15回	Unit 15: Farewell, Masa and Lucy②	井上

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回授業の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	20
事後学習	学習した語彙、文法、表現等を復習し、テキストの復習問題を解く。	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答の時間を設ける。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日12:30〜13:00 研究室(西館309号室)		

テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標を達成できること。
成績評価の方法	定期試験（60%）、授業に取り組む姿勢（40%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	英語演習 II	科目ナンバー	AA022009
担当者	中野　由美子		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2単位	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	四技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）を用いながら、英語でのコミュニケーション能力を習得する。実際のコミュニケーション場面での英語運用を想定し、語彙・文法や定型表現など英語の基礎を学習する。自分や身の回りのことを英語で表現したり、他者と英語でやり取りを行ったりする力を身に付ける。また、言語の背景にある異文化について理解し、学んだことをコミュニケーションに活かせるようになる。			
授業の到達目標	1.基礎的な語順など、英語の構造や文法規則を理解する。 2.英語で読み聞きする内容を正しく理解する。 3.自分に関する情報や自分の身の回りのことを相手に英語で伝える。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	Unit 8: Socializing with Co-Workers②	中野
第2回	Unit 9: Vacation Spots①	中野
第3回	Unit 9: Vacation Spots②	中野
第4回	Unit 10: Sports Talk①	中野
第5回	Unit 10: Sports Talk②	中野
第6回	Unit 11: Tour Day①	中野
第7回	Unit 11: Tour Day②	中野
第8回	Unit 12: Party Time!①	中野
第9回	Unit 12: Party Time!②	中野
第10回	Unit 13: Office Meeting①	中野
第11回	Unit 13: Office Meeting②	中野
第12回	Unit 14: A Bit of History①	中野
第13回	Unit 14: A Bit of History②	中野
第14回	Unit 15: Farewell, Masa and Lucy①	中野
第15回	Unit 15: Farewell, Masa and Lucy②	中野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回授業の範囲を予習し、分からない単語等を調べてくる。	学習合計時間(h)	20
事後学習	学習した語彙、文法、表現等を復習し、テキストの復習問題を解く。	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答の時間を設ける。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日12:30〜13:00 研究室(西館309号室)		

テキスト	『English Missions! Basic』 Robert Hickling、臼倉美里
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標を達成できること。
成績評価の方法	定期試験（60%）、授業に取り組む姿勢（40%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	中国語演習Ⅱ	**科目ナンバー**	**AA022010**
担当者	黒川　太郎		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	中国語演習Ⅰの履修者が受講する科目です。演習Ⅰと同じの教科書を用い、新しい表現と文法を学び、引き続き正確な発音練習を授業内で行います。また、日常生活や旅行で役立つような簡単な表現を中心に教えると同時に配布資料を通じて新たな語彙の習得を目指します。この授業の終わりには、受講者が中国語母語者を相手に簡単な受け答えができるようになることを目標としています。			
授業の到達目標	1.本文を正確に読むことできる。2.基本的な文型を使った表現ができる。3.日常会話で必要な単語を覚え、正確に発音できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連		◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	前期の復習(1課～10課)	黒川
第2回	第11課　必要(1)語気助詞「了」　「みかんを買いたいです」	黒川
第3回	第12課　必要(2)主述述語文　　「セーターを買いたいです」	黒川
第4回	第13課　必要(3)能願助詞「会」　「乗り換えが必要です」	黒川
第5回	旅行時の会話表現	黒川
第6回	第14課　必要(4)兼語文 「両替に行きたいです」	黒川
第7回	第15課　必要(5)「是」文　「写真を撮りたいです」	黒川
第8回	復習第11課～第15課【会話テスト】	黒川
第9回	第16課　約束(1)動態助詞「?」　「京劇を見たことがありますか」	黒川
第10回	第17課　約束(2)選択疑問文　「動物園に行きます」	黒川
第11回	買い物での表現、お金の言い方	黒川
第12回	第18課　迎える(1)文型「要～了」　「道中お疲れさまでした」	黒川
第13回	第19課　迎える(2)動量補語　「歓迎いたします」	黒川
第14回	第20課　程度補語　「私たちの友情のために乾杯」	黒川
第15回	復習第16課～第20課【会話テスト】	黒川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・教科書付属のCD を聞いて声調等の発音を身につける・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える	学習合計時間(h)	30
事後学習	・教科書付属のCD を聞いて声調等の発音を身につける・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	希望があれば個別に対応する。また、授業内で言及する場合もある。		
質問・相談方法	オフィスアワー内で対応。		
オフィスアワー	月　15：10～16:00　　黒川研究室(西館307号室)		

テキスト	『新訳第3版 中国語会話301(上)』　康玉華・来思平　語文研究社　2006年　1300円(税抜き)(ISBN-10: 493131550X)
参考文献等	特になし
成績評価基準	教科書内の文章を正確に読むことできる。基本的な文型を応用した表現ができる。
成績評価の方法	定期試験(50%)出席・遅刻などを含む受講態度を総合的に評価(30%)授業内で行う会話試験(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	韓国語演習 II	科目ナンバー	AA022011
担当者	鄭 芝淑		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2単位	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。 ・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。 ・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。

ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）

授業計画		担当者
第1回	前期の復習	鄭
第2回	第3課(弟もいますか)の文法解説と朗読練習、文法解説	鄭
第3回	3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第4回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第5回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第6回	会話練習	鄭
第7回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第8回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第9回	漢数詞の練習、会話練習	鄭
第10回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鄭
第11回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	鄭
第12回	固有数詞の練習、会話練習	鄭
第13回	会話練習	鄭
第14回	今学期の学習のまとめ	鄭
第15回	音読試験	鄭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日　13:00-13:10、16:20-30(講義室)		

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN：9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント　外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神

科目名	韓国語演習Ⅱ	科目ナンバー	AA022011
担当者	鶴田　かおり		
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	外国語コミュニケーション		
授業形式	演習		
配当年次	1年	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択必修
単位数	2単位	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	—		

授業の概要	「韓国語演習Ⅰ」に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていく。外国語の学習は単なる知識にとどまるのではなく実際に使えるようになってこそ意味があるという見地に立って、コミュニケーションの場を想定した演習形式で学習するように図り、さらに学習したことが確実に理解されているかどうかを提出課題、小テストなどによってチェックする。			
授業の到達目標	・簡単な韓国語文の構造を理解し、正確に音読し書くことができる。 ・日常よく使われる簡単な単語や文を使うことができる。 ・韓国語の学習を通じて、その背景にある韓国事情・韓国文化の基本的な事項について説明ができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	前期の復習	鶴田
第2回	第3課(弟もいますか)の文法解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第3回	3課(弟もいますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第4回	第4課(勉強よくできますか。)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第5回	第4課(勉強よくできますか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第6回	会話練習	鶴田
第7回	第5課(誕生日はいつですか)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第8回	第5課(誕生日はいつですか)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第9回	漢数詞の練習、会話練習	鶴田
第10回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の本文対話解説と朗読練習、文法解説	鶴田
第11回	第6課(家族と一緒に故郷に行きます)の文法解説(つづき)、応用練習	鶴田
第12回	固有数詞の練習、会話練習	鶴田
第13回	会話練習	鶴田
第14回	今学期の学習のまとめ	鶴田
第15回	音読試験	鶴田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回に習うことについて一通り目を通し、理解しにくい点がどこか明らかにしておく。練習問題、応用練習問題はあらかじめやっておくようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中に習った練習問題、応用練習問題は5回以上反復練習する。小テストに備えて復習をする。課題は決められた期日までに提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎回提出された課題の添削および返却。		
質問・相談方法	授業前後およびオフィスアワーで対応する。メールでは随時対応可能。		
オフィスアワー	月曜日　13:00-13:10、16:20-30(講義室)		

テキスト	『韓国語の基礎Ⅰ第2版』 飯田秀敏・鄭芝淑・飯田桃子 共著、朝日出版社、2025、2,400円(税抜き)、ISBN：9784255557328
参考文献等	必要があれば授業中に指示する。
成績評価基準	授業に積極的に取り組み、この授業の到達目標を達成できたものを合格とする。
成績評価の方法	課題(30%)と期末試験(70% :音読試験20%、筆記試験50%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	「韓国語演習Ⅰ」の単位を履修しておくことが望ましい。受講者へのコメント　外国語の学習はとにかく「楽しく」やらなければなりません。単位のための勉強などと考えずに、未知の世界に踏み込み自分の世界を広げるのだという気持ちで、元気よく参加してください。「なせば成る」の精神

科目名	数学基礎	**科目ナンバー**	**AA011203**
担当者	内田　豊海		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。			
授業の到達目標	1.数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う2.数学の有用性を認識する3.習得した技能を日常に応用することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	数の歴史　いろいろな文化にある様々な数学	内田
第2回	不思議な数のパターン	内田
第3回	微分と積分　イメージすると計算できる	内田
第4回	迷路　出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう	内田
第5回	グラフを読む　鹿児島の人口変動を探ろう	内田
第6回	数値を読み解く　オリンピック選手を選んでみよう	内田
第7回	タングラム　図形を組み合わせてみると	内田
第8回	面積　一つの知識でどれだけのことが考えられるか	内田
第9回	確率　好きな人の隣に座れる確率は	内田
第10回	フィボナッチ数　美しいデザインの中にある秘密	内田
第11回	価値観　数を選ぶことで、自分の価値を知る	内田
第12回	関数　変化する先の予測	内田
第13回	証明　どうしたら人に説明できるだろう	内田
第14回	ベクトル　力を図示するとわかること	内田
第15回	不完全性定理　数学はどこまで正しいのだろうか	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	火曜日　14:40~17:00(西館412号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『偏愛的数学　驚異の数』ポザマンティエ著　岩波書店　(ISBN-978-4000059817) 2200円
成績評価基準	各単元の数学的知識の理解および問題解決力の有無
成績評価の方法	定期試験(70%)　　受講態度(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	ビデオ・オンデマンドによる遠隔授業を行う可能性がある。

科目名	理科基礎	**科目ナンバー**	**AA011204**
担当者	内田　豊海		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんのことに興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしてあります。			
授業の到達目標	"1.理科・科学の楽しさを実感する2.様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う3.疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する"			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう	内田
第2回	五感で感じられることは何？　視覚・聴覚・触覚	内田
第3回	五感で感じられることは何？　嗅覚・味覚	内田
第4回	最先端の科学事情　今科学でできること	内田
第5回	宇宙の誕生と今、そして未来	内田
第6回	星座物語と地球誕生	内田
第7回	生物　その進化と多様性	内田
第8回	遺伝するもの、しないもの	内田
第9回	病気ってなんだろう？	内田
第10回	燃えるもの、燃えないもの	内田
第11回	化学反応式はすごい　こんなことまで説明できる	内田
第12回	電化製品はどんな仕組み？　イヤホンを作ってみよう	内田
第13回	炎色反応　金属を使って花火を作ろう	内田
第14回	時間の流れは同じではない？相対性理論と量子力学	内田
第15回	科学的ってなんだろう？　科学と疑似科学	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る	学習合計時間(h)	30
事後学習	日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	講義において教室全体に対してのコメントとしてフィードバックしていく		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	火曜日　14:40~17:00(西館412号室)		

テキスト	特になし授業中に適宜資料を配布する
参考文献等	科学雑誌『ニュートン』
成績評価基準	基礎的な知識だけでなく、科学的思考力の定着度合い、さらに理科への興味関心の具合を基準とする
成績評価の方法	定期試験(70%)　受講態度(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	ビデオ・オンデマンドによる遠隔授業を行う可能性がある。

科目名	分子からみた生物	**科目ナンバー**	**AA011205**
担当者	横峯　孝昭		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられるよう講義する。			
授業の到達目標	1．生物について基礎的な知識を習得する2．最近の生物に関する知見を学ぶ			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	生物と細胞	横峯
第3回	生物の体を作っているもの(異化)	横峯
第4回	生物の体を作っているもの(同化)	横峯
第5回	細胞の増え方、精子と卵のでき方	横峯
第6回	メンデルの遺伝(優性の法則、分離の法則について)	横峯
第7回	血液型で遺伝を知ろう	横峯
第8回	男の子、女の子の生まれる確率(伴性遺伝)	横峯
第9回	遺伝疾患の分類	横峯
第10回	最近の生物学について（分子生物学の三種の神器）	横峯
第11回	臓器移植(臓器移植に関してお互いの考えを討論しよう)	横峯
第12回	生物の進化と地球環境1(生命の誕生)	横峯
第13回	生物の進化と地球環境2(全球凍結と生命)	横峯
第14回	生命の進化と地球環境3(大海からの離脱)	横峯
第15回	生物の進化と地球環境4(大量絶滅)	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	小・中学校時に学習した関連の内容について復習しておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	自ら作成した板書ノートを読み直し、次の講義へ備える	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題に対しては求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室(西館401号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『休みの時間の生物学』 朝倉幹晴　講談社サイエンティフィック　2376円(税込み) (ISBN978-4061557017)
成績評価基準	本講義内において紹介・説明した生物学の一般常識を理解し、自分の言葉で説明できること
成績評価の方法	定期試験(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	SDGs論	**科目ナンバー**	**AA042011**
担当者	石田　もとな		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	持続可能な社会の構築は、現代社会における非常に大きな課題の一つである。グローバルな視点とローカルな視点の両方を兼ね備え、身近なことから持続可能な社会の構築に取り組める人材となるために必要な知識を習得し、そのために行動すべきことに関して立案、実行する。			
授業の到達目標	1. SDG s とは何かを理解する2. 持続可能な社会の実現に関して自らができることを考え、行動に移すことができる3. SDG s に関する情報を発信することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○		○	◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス　SDGSとは何か、この授業では何について学ぶのか　世界が百人の村だったら(SDGS① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑩ ⑯)	石田
第2回	世界の果ての通学路（SDGs④）	石田
第3回	映像メディアにおける人類への警告	石田
第4回	ウルトラマンガイアで学ぶ環境への配慮（SDGs⑭⑮）	石田
第5回	ウルトラマンコスモスで学ぶ平和と公正（SDGs⑯）	石田
第6回	私たちのCSR　どのようなことに取り組めるか	石田
第7回	企業のCSR	石田
第8回	ジェンダー平等（SDGs⑤）	石田
第9回	SDGsを発信する方法	石田
第10回	出前授業企画	石田
第11回	出前授業レッスンプランと教材作成	石田
第12回	授業実践(児童教育学科)	石田
第13回	授業実践（教養・生活科学科）	石田
第14回	授業の振り返りとアドバイス	石田
第15回	まとめとレポート	石田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	企業においての実務経験を活かし実践的な演習を行う		
事前学習	各回のテーマについて、情報収集する	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業中に出された課題に取り組み、内容を確実に理解する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時間内に解説する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応		
オフィスアワー	火曜日　16：30～17：30　研究室(西館404号室)＊要事前連絡		

テキスト	『こどもSDGｓ』バウンド著　秋山宏次郎監修　株式会社カンゼン　2020　ISBN978-4-86255-561-8
参考文献等	『SDGs実践入門』　泉　貴嗣著　株式会社　技術評論社　2021　ISBN 978-4-297-11752-8　C0034
成績評価基準	SDGｓについての知識を身につけ、それを発信できる力を身につけていること
成績評価の方法	受講態度(50%)　演習への取り組み(30%)　課題レポート(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	データサイエンス概論	**科目ナンバー**	**AA041205**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	情報化社会におけるデータの量は日々増え続けている。それらのデータは加工され有益な情報になり、より豊かで便利な生活を送るために、我々の生活に活かされている。本講義ではそのようなデータサイエンスの考え方や技術が利用されている概況を理解し、統計的なモノの見方を身につける。データサイエンスとは何なのかを自らの言葉で説明できる、統計的考え方を理解する、基本的な統計処理を行うことを目指す。時間が許せば機械学習を用いた予測を行う。また、いくつかの講義では、PCやスマートフォンから学生の質問や意見をリアルタイムで収集することによって、双方向のコミュニケーションをとり、受講者の関心や理解度に応じた講義を行う。			
授業の到達目標	1. データサイエンスの概要や利活用されている現状を知る。 2. データサイエンスと統計の違い、基本的な統計的考え方を理解する。 3. エクセルを用いた基礎的な統計処理ができるようになる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	授業の導入 (内容)データとは何か、データの種類	村田
第2回	データサイエンス (内容)データサイエンスの概要と目的	村田
第3回	データサイエンスの活用事例 (内容)回帰、分類、予測	村田
第4回	統計とデータサイエンスの違い (内容)統計的な考え方	村田
第5回	単純集計表とクロス集計表 (内容)統計の基礎的な集計を行う。	村田
第6回	エクセルでできる統計処理 (内容)統計で使える関数を知る。	村田
第7回	可視化とその意義 (内容)可視化の意義、アンスコムの例	村田
第8回	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフ (内容)基礎的なグラフの描画と活用事例	村田
第9回	散布図、レーダーチャート、ヒストグラム (内容)統計でよく使われるグラフの描画と活用事例	村田
第10回	基本統計量による表現と意味 (内容)統計量とは何か、エクセルを用いたデータ分析	村田
第11回	代表値の利用 (内容)代表値とは何か、平均値と中央値の違いと使い分け	村田
第12回	散布度の利用 (内容)データの散らばりを考える。分散と標準偏差	村田
第13回	相関と回帰 (内容)相関関係とは何か、回帰分析で分かること	村田
第14回	相関関係と因果関係 (内容)相関と因果の違い。擬似相関を知る。	村田
第15回	政府統計データの分析 (内容)世帯年収と度数分布表の見方、授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIを用いた予測やPython,SPSSを用いた統計処理の経験を有す。		
事前学習	シラバスのタイトル(知らない用語等)に関して自ら調べる。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容の復習、適宜課題提出を求める。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「教養としてのデータサイエンス」内田誠一(著)講談社 2021年 ¥1980 ISBN978-4065238097「統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識」三好大悟, 堅田洋資(著)インプレス 2021年 ¥1980 978-4295011088
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

専 門 科 目

科目名	解剖生理学Ⅰ	**科目ナンバー**	**S21102**
担当者	竹中　正巳		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体の構造と機能を解説することにより、日常生活に役立つ内容にする。また、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割についても十分に解説する。			
授業の到達目標	1．人体構造の仕組みと働きを理解する。2．器官相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知る。3．人体の構造と機能を多面的にとらえられるようになる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	細胞（人体とは、細胞の構造、細胞内小器官、体液、活動電位、代謝、恒常性とその維持）	竹中
第2回	組織（上皮組織、筋組織）	竹中
第3回	組織（結合組織、神経組織）	竹中
第4回	口と歯（口腔の構造と機能）	竹中
第5回	口腔，咽頭，喉頭（咀嚼、嚥下、食道）	竹中
第6回	消化吸収（胃、小腸、大腸の構造と機能、消化管運動の神経支配）	竹中
第7回	消化吸収（胃、小腸、大腸における消化、栄養素の消化･吸収、消化酵素、消化管ホルモン）	竹中
第8回	消化吸収（膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能）	竹中
第9回	心臓・血管（心臓、動脈、静脈の形態と機能、血圧とその調節、心電図検査）	竹中
第10回	血管・リンパ管（血圧とその調節、血液の組成と機能、血液凝固、血液型、リンパ管の構造）	竹中
第11回	呼吸器（呼吸器の構造、換気）	竹中
第12回	呼吸器（呼吸運動、呼吸の調節、酸素解離曲線、呼吸中枢、肺活量、肺機能検査）	竹中
第13回	泌尿器（腎臓の構造と機能）（腎臓の構造と機能、尿の成分、恒常性とその維持）	竹中
第14回	泌尿器（排尿路の構造、排尿のメカニズム）	竹中
第15回	内分泌（視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓の各ホルモンの作用と分泌調節）	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストをよく読んで講義に臨む	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義後はテキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を確かめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後等で対応する。		
オフィスアワー	授業の前後15分（講義実施教室）		

テキスト	坂井建雄・宇賀 貴紀・小野富三人　『系統看護学講座１　解剖生理学（第12版）』　医学書院　2026年　4,300円(税抜き) ISBN　978-4-260-06184-1
参考文献等	『カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで』　井上貴央監訳　西村書店　2003年　7,800円(税抜き)(ISBN ：978-4-890-13305-5)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	中間試験（3回：筆記試験）(75%)、定期試験（筆記試験）(25%)(状況に応じ、評価方法をレポートで代替する場合がある）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	解剖生理学Ⅱ	**科目ナンバー**	**S21203**
担当者	竹中　正巳		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	講義は器官相互の位置関係も重視し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。疾病と関連させて人体の構造と機能を解説することにより、日常生活に役立つ内容にする。また、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割についても十分に解説する。			
授業の到達目標	1．人体構造の仕組みと働きを理解する。2．器官相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知る。3．人体の構造と機能を多面的にとらえられるようになる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	内分泌（副腎、性腺の各ホルモンの作用と分泌調節）	竹中
第2回	骨格・関節（骨格とは、骨の連結、体幹の骨、頭蓋）	竹中
第3回	骨格・関節（上肢・下肢の骨）	竹中
第4回	筋肉（筋肉の構造と種類、体幹・頭蓋の筋肉）	竹中
第5回	筋肉（上肢・下肢の筋肉の構造と種類、筋肉の収縮、運動の調節、筋収縮の仕組み）	竹中
第6回	中枢神経（中枢神経の構造と機能、脳、脳の高次機能）	竹中
第7回	中枢神経（脊髄の構造と機能、運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路）	竹中
第8回	末梢神経（脳神経の構造と機能、支配領域）	竹中
第9回	末梢神経（脊髄神経の構造と機能）	竹中
第10回	末梢神経（自律神経の機能）	竹中
第11回	感覚器（眼・耳の構造と機能）	竹中
第12回	感覚器（舌・鼻・皮膚の構造と機能、外部環境からの防御）	竹中
第13回	生殖器（男女生殖器、精巣・卵巣の構造と機能）	竹中
第14回	人体の発生（受精と胎児の発生、精巣・卵巣の機能の調節、妊婦と分娩）	竹中
第15回	人体の発生（成長と老化）	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストをよく読んで講義に臨む	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義後はテキストの各章末にあるゼミナール問題を解いて、理解度を確かめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後等で対応する。		
オフィスアワー	授業の前後15分（講義実施教室）		

テキスト	坂井建雄・宇賀 貴紀・小野富三人　『系統看護学講座１　解剖生理学（第12版）』　医学書院　2026年　4,300円(税抜き) ISBN　978-4-260-06184-1
参考文献等	『カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで』　井上貴央監訳　西村書店　2003年　7,800円(税抜き)(ISBN ：978-4-890-13305-5)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	中間試験（3回：筆記試験）(75%)、定期試験（筆記試験）(25%)(状況に応じ、評価方法をレポートで代替する場合がある）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	疾病の成り立ち	**科目ナンバー**	**S21204**
担当者	奥田　龍一郎		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	学年指定なし	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	本科目は、これまでに学んできた基礎医学の知識を、「実際の人の病気や健康状態」に結びつけて考えるための科目である。病気がなぜ起こり、体の中でどのような変化が生じているのかを理解することで、臨床栄養学や給食管理、地域での栄養支援を学ぶための土台を形成する。医師の視点から病態を学ぶことで、医療現場で使われる言葉や考え方を理解し、多職種と連携する栄養士として必要な基礎的理解力を身につけることを目指す。			
授業の到達目標	1．主な疾病について、発症から進展までの病態の流れを説明できる 2．病態に伴う代謝・栄養状態の変化を基礎医学と結びつけて理解できる 3．検査値・症状・治療の背景を踏まえ、栄養支援が必要となる理由を説明できる 4．医師・看護師等の説明を理解し、臨床栄養学を学ぶ準備が整った状態になる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション：本科目の目的と位置づけ、「疾病を学ぶ」とはどういうことか、栄養士にとって病態理解がなぜ必要か	奥田
第2回	疾病の成り立ちの基本：健康状態から疾病への移行、炎症・障害・代償・回復という考え方	奥田
第3回	炎症と免疫の基礎：急性炎症・慢性炎症、感染症と非感染性疾患の違い	奥田
第4回	代謝異常と疾病：エネルギー代謝・糖代謝・脂質代謝の破綻、低栄養・過栄養が病態に及ぼす影響	奥田
第5回	循環器疾患の病態：高血圧・動脈硬化の成り立ち、栄養と循環器病の関係の導入	奥田
第6回	糖尿病の病態：インスリン作用と耐性、合併症が起こる理由	奥田
第7回	腎疾患の病態：腎機能の役割、電解質・水分異常の考え方	奥田
第8回	肝疾患の病態：肝臓の代謝機能、肝障害時に起こる栄養学的変化	奥田
第9回	消化管疾患の病態：消化・吸収障害、食事が症状に影響する理由	奥田
第10回	呼吸器疾患の病態：酸素供給とエネルギー代謝、呼吸困難と栄養状態	奥田
第11回	がんの病態：がん悪液質の考え方、食欲低下・体重減少の背景	奥田
第12回	高齢者に多い病態の特徴：フレイル・サルコペニア、多疾患併存という視点	奥田
第13回	医療現場での多職種連携：医師が病態をどう説明するか、栄養士に求められる理解のレベル	奥田
第14回	病態理解から臨床栄養へ：臨床栄養学への接続、これから学ぶ内容の見通し	奥田
第15回	まとめ	奥田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	医師の実務経験を活かして、疾病の成り立ちについて教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	理解できなかったところは質問し、課された課題は必ず取り組む	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業後(オフィスアワーで)対応する。		
オフィスアワー	講義終了後実施		

テキスト	臨床栄養学概論　第2版　鈴木　一永他 - 株式会社　化学同人2022　2,900円(税抜き)、ISBN：9784759818659
参考文献等	レビューブック 管理栄養士 2026	めざせ！管理栄養士！2026年4月中旬発行予定
成績評価基準	疾病の成り立ちに関する基礎的知識の理解度と病態を説明する力を身につけたものを合格とする。
成績評価の方法	定期試験100％
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	栄養生化学Ⅰ	**科目ナンバー**	**S21101**
担当者	大賀　早希		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	三大栄養素の機能や構造を理解し、化学的な構造や特徴を通して、三大栄養素とはどのような物質であるのかを説明する。また、私たちの体内での代謝をつかさどるたんぱく質である「酵素」による反応の特徴についても解説する。さらに、食事を摂取する一番の目的である、生体内での主たるエネルギー源であるATPの産生方法についても解説する。			
授業の到達目標	1.　三大栄養素について、化学構造や特徴から説明できる2. 酵素反応の特徴について説明できる3. 糖質の代謝について説明できる4. 血糖値の調節について説明できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	生化学導入～生化学を学ぶ意義～	大賀
第2回	糖質の特徴（単糖類・二糖類）	大賀
第3回	糖質の特徴（多糖類・複合糖質）	大賀
第4回	脂質の分類	大賀
第5回	脂質の構造と機能	大賀
第6回	コレステロール、脂肪酸	大賀
第7回	アミノ酸の構造と性質	大賀
第8回	たんぱく質の構造と分類	大賀
第9回	アミノ酸の性質	大賀
第10回	酵素の性質,分類	大賀
第11回	糖質の代謝概要	大賀
第12回	ATPの役割	大賀
第13回	解糖系	大賀
第14回	クエン酸回路・電子伝達系	大賀
第15回	糖新生	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	高校で学んだ化学や生物を復習し、科学的な考え方や基礎的な化学知識について身につけておくこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10　研究室		

テキスト	『Ｎブックス　生化学の基礎』、岡純 曽根英行 沼田卓也 編著、建帛社、2020年、2500円（税抜き）、ISBN978-4-7679-0643-0
参考文献等	『健康・栄養科学シリーズ　生化学』　国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修　南江堂　2019年　3000円（税抜き）　ISBN: 978-4-524-24182-8　　『栄養科学イラストレイテッド　生化学』　園田勝編　羊土社　2017年　2800円（税抜き）　ISBN 978-4-7581-1354-0
成績評価基準	三大栄養素の構造と機能、糖質の代謝、また酵素とはどのような特徴をもつ生体分子なのかについて説明できたものは合格とする。
成績評価の方法	小テスト(30%)と定期テスト(７0%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目

科目名	栄養生化学Ⅱ	**科目ナンバー**	S21202
担当者	大賀　早希		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教　　選択必修：子ども食物アレルギー実務課程		

授業の概要	私たちが健康的に生きていけるのは、体内で代謝が、滞りなく、正しく行われているからである。体内でどのように代謝されるのかの理解を生化学Ⅰに続いて解説する。また遺伝の仕組みの基礎理解のために、ヌクレオチドと核酸について説明する。また、DNAの情報を基にして、体内でたんぱく質が合成される流れについても解説する。さらに食物アレルギーの理解のため、免疫と生体防御の基礎やアレルギーについても解説する。			
授業の到達目標	1.脂質・たんぱく質の代謝について説明できる2.核酸の化学構造や特徴について説明できる2. 体内でDNAの情報からたんぱく質が合成される流れについて説明できる3.免疫の仕組みに基づいて食物アレルギーについて説明できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	生化学２導入～生化学Ⅰのおさらい～	大賀
第2回	脂質の代謝概要	大賀
第3回	脂肪酸の酸化	大賀
第4回	脂質の輸送と蓄積	大賀
第5回	たんぱく質の合成と分解	大賀
第6回	アミノ酸の代謝、アミノ酸プール	大賀
第7回	アミノ基転移反応	大賀
第8回	核酸とたんぱく質の合成	大賀
第9回	核酸と遺伝子	大賀
第10回	転写と翻訳	大賀
第11回	免疫系による生体防御	大賀
第12回	アレルギー・自己免疫疾患	大賀
第13回	ホルモンの定義と種類	大賀
第14回	ホメオスタシスの維持	大賀
第15回	総括	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	前期の「栄養生化学Ⅰ」で学んだ、関連する栄養素について復習を行っておくこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各回の授業終了時に行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10　研究室		

テキスト	生化学Ⅰに同じ
参考文献等	生化学Ⅰに同じ
成績評価基準	脂質、たんぱく質の代謝、核酸について理解でき、生体防御機構と食物アレルギーについて説明できたものは合格とする。
成績評価の方法	小テスト(30%)と定期テスト(７0%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目　「栄養生化学Ⅰ』の単位を修得しておくことが望ましい。

科目名	食品学総論		科目ナンバー	S21103
担当者	井上　和彦			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	講義			
配当年次	1年	科目群	専門科目［食品と衛生］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免			

授業の概要	現在の日本において、多国籍、多種類、多形態の食品が豊富に出回り、多様な食品を口にする機会が増えている。それに伴い食品に求められる役割も、栄養性、嗜好性に加えて、生体調節性と多岐にわたっている。本講義では、健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できるよう、食品成分の特徴や、食品に関する基礎的知識について講義する。			
授業の到達目標	1.食品成分の特徴を説明できる。 2.食品に関する基礎的知識を説明できる。 3.健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	人間と食べ物・食品の分類	井上
第2回	食品成分表①（食品成分表の沿革及び特徴）	井上
第3回	食品成分表②（食品成分の分析方法）	井上
第4回	食品成分表③（食品成分表の活用及び利用上の注意事項）	井上
第5回	食品成分①（水分）	井上
第6回	食品成分②（タンパク質）	井上
第7回	食品成分③（脂質）	井上
第8回	食品成分④（炭水化物）	井上
第9回	食品成分⑤（無機質）	井上
第10回	食品成分⑥（ビタミン）	井上
第11回	食品成分⑦（嗜好成分及び有害成分）	井上
第12回	食品成分の化学変化	井上
第13回	食品の機能性	井上
第14回	食品の物性と官能評価	井上
第15回	バイオテクノロジーと新しい食品	井上

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で取り扱う項目について、事前に調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	小テストを実施するため、その内容について復習を行う。いろいろな食品を実際に見て、触って、調理して、食べる。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答の時間を設け、小テスト対しては適宜授業の中で解説する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日12:30～13:00 研究室(西館309号室)		

テキスト	『食べ物と健康，食品と衛生 食品学総論 第5版』 渡邊浩幸、竹内弘幸、古場一哲、重村泰毅　講談社サイエンティフィク　2026年　2,800円(税別)
参考文献等	『ひと目でわかる 食べ物のしくみとはたらき図鑑』 北村真理、屋良佳緒利　創元社　2019年
成績評価基準	食品成分の特徴について、基礎的な知識を身につけること。
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テスト(20%)、授業への取り組み（10%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	食品学各論	**科目ナンバー**	S21205
担当者	木戸　めぐみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［食品と衛生］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程		

授業の概要	本講義では、食品の知識を深め、各々に適した調理・加工・保存方法を選択することができるよう、各食品の特徴的な成分や、調理加工に伴う成分変化、貯蔵法・加工法等について講義する。また、食物アレルギーの原因食物やアレルゲンの特性、加工食品の食物アレルギー表示について説明する。			
授業の到達目標	1．食品の成分特性、生理的機能について説明できる2．食品の調理・加工時に伴う食品成分の変化について説明できる3．食品の貯蔵法、加工法の特徴を説明できる4．食物アレルギーの原因食物別の特徴について説明できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	食品の分類、食料の需給	木戸
第2回	植物性食品の特徴－穀類	木戸
第3回	いも類、甘味料の特徴	木戸
第4回	豆類、種実類の特徴	木戸
第5回	野菜類の特徴	木戸
第6回	果実類の特徴	木戸
第7回	きのこ類、藻類の特徴、利用	木戸
第8回	魚介類の特徴、利用	木戸
第9回	肉類の特徴、利用	木戸
第10回	卵・乳類の特徴、利用	木戸
第11回	各種食品－食用油脂、菓子類、嗜好飲料、酒類の特徴、利用	木戸
第12回	調味料・加工食品類の特徴、利用	木戸
第13回	調理・加工による食品成分の変化(食物アレルギー原因成分の調理・加工による変化)、加工食品の表示(食品表示法に基づく食物アレルギー表示)	木戸
第14回	加工食品の表示(食品表示法に基づく食物アレルギー表示)	木戸
第15回	総括・まとめ	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で取り扱う項目について事前に調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回小テストを実施するため、その内容について復習を行う。いろいろな食品を実際に見たり、触ったり、調理し食べたりする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎時間の小テスト対して適宜授業の中で解説する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:30　研究室(本館505号室)		

テキスト	『食べ物と健康，食品と衛生　食品学各論　第4版』・小西洋太郎他 ・講談社 ・2021年　2,600円(税抜き)・(ISBN978-4-06-522466-3)
参考文献等	『八訂 食品成分表』・香川明夫監修 ・女子栄養大学出版部・2026年・1,700円(税抜)・(ISBN978-4-7895-1026-4)
成績評価基準	食品の持つ性質や加工特性に関する基礎的な知識を身につけたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、毎回の小テスト(30%)で判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipaを使用する。

科目名	食品学実験	**科目ナンバー**	**S21104**
担当者	有馬　一成		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実験		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［食品と衛生］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	後に続く各種の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実験できるよう、実験に必要な基礎知識と基本操作を説明する。さらに、食品の基礎的知識、および食品成分表について理解が深まるよう、身の回りにある食材を使用し実験を行う。			
授業の到達目標	1.実験に必要な基礎知識を理解し、安全に実験を行うことができる。 2.基本操作を学び、基本的実験姿勢を身につけて実験を行うことができる。 3.食品の化学的特性、食品成分表における分析法について理解する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(実験に必要な基礎知識と準備)	有馬
第2回	でんぷんの分離と検鏡、水分測定（でんぷんの観察、食品中の水分測定）	有馬
第3回	pH測定(pH測定と緩衝能を理解する)	有馬
第4回	基礎練習、標準液の標定（ファクターを求める）	有馬
第5回	食酢中の酢酸の定量、灰分の定量（食酢に含まれる酢酸%を求める）	有馬
第6回	無機質の定性と炎色反応（無機質の性質を知る）	有馬
第7回	たんぱく質の定性（たんぱく質とアミノ酸の特徴）	有馬
第8回	糖の定性（化学反応で糖質の特徴を理解する）	有馬
第9回	酵素による褐変、非酵素的褐変（褐変の条件を調べる）	有馬
第10回	分光光度計の練習実験(サンプル量の求め方を知る)	有馬
第11回	酵素の活性測定（アミラーゼの糖化力を測定する）	有馬
第12回	アミロース含量の測定（でんぷん中のアミロース含有率を測定する）	有馬
第13回	フラボノイド系色素の呈色反応（食品の色調の変化を観察する）	有馬
第14回	グルテンの分離およびマンニトールの抽出（小麦粉、昆布の成分の分離）	有馬
第15回	総括	有馬

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	資料を読み、実験内容を理解する。	学習合計時間(h)	1
事後学習	実験内容をまとめ、レポートとして提出する。	学習合計時間(h)	2
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後で対応する。		
オフィスアワー	授業の前後で対応する。場所：授業を実施する教室（主に実験室）		

テキスト	テキストは使用せずに、資料を配布する。
参考文献等	『食品学実験書 第5版』 藤田修三、乗鞍敏夫 医歯薬出版　2025年 ・2,500円（税別） (ISBN: 978-4-263-70167-6)
成績評価基準	基本的な実験姿勢を身につけ、食品に対する理解を深めた者を合格とする。
成績評価の方法	課題レポート(60%)、授業への取り組み（40%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×15回で実施する。 天災等による休講があった場合、課題提示型の実験授業等を行うことがある。

科目名	食品学実験	科目ナンバー	S21104
担当者	河邊　弘太郎		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	実験		
配当年次	1年	科目群	専門科目［食品と衛生］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	後に続く各種の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実験できるよう、実験に必要な基礎知識と基本操作を説明する。さらに、食品の基礎的知識、および食品成分表について理解が深まるよう、身の回りにある食材を使用し実験を行う。			
授業の到達目標	1.実験に必要な基礎知識を理解し、安全に実験を行うことができる。 2.基本操作を学び、基本的実験姿勢を身につけて実験を行うことができる。 3.食品の化学的特性、食品成分表における分析法について理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実験に必要な基礎知識と準備)	河邊
第2回	でんぷんの分離と検鏡、水分測定（でんぷんの観察、食品中の水分測定）	河邊
第3回	pH測定(pH測定と緩衝能を理解する)	河邊
第4回	基礎練習、標準液の標定（ファクターを求める）	河邊
第5回	食酢中の酢酸の定量、灰分の定量（食酢に含まれる酢酸%を求める）	河邊
第6回	無機質の定性と炎色反応（無機質の性質を知る）	河邊
第7回	たんぱく質の定性（たんぱく質とアミノ酸の特徴）	河邊
第8回	糖の定性（化学反応で糖質の特徴を理解する）	河邊
第9回	酵素による褐変、非酵素的褐変（褐変の条件を調べる）	河邊
第10回	分光光度計の練習実験(サンプル量の求め方を知る)	河邊
第11回	酵素の活性測定（アミラーゼの糖化力を測定する）	河邊
第12回	アミロース含量の測定（でんぷん中のアミロース含有率を測定する）	河邊
第13回	フラボノイド系色素の呈色反応（食品の色調の変化を観察する）	河邊
第14回	グルテンの分離およびマンニトールの抽出（小麦粉、昆布の成分の分離）	河邊
第15回	総括	河邊

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	資料を読み、実験内容を理解する。	学習合計時間(h)	1
事後学習	実験内容をまとめ、レポートとして提出する。	学習合計時間(h)	2
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後で対応する。		
オフィスアワー	授業の前後で対応する。場所：授業を実施する教室（主に実験室）		

テキスト	テキストは使用せずに、資料を配布する。
参考文献等	『食品学実験書 第5版』 藤田修三、乗鞍敏夫 医歯薬出版　2025年 ・2,500円（税別） (ISBN: 978-4-263-70167-6)
成績評価基準	基本的な実験姿勢を身につけ、食品に対する理解を深めた者を合格とする。
成績評価の方法	課題レポート(60%)、授業への取り組み（40%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×15回で実施する。 天災等による休講があった場合、課題提示型の実験授業等を行うことがある。

科目名	食品衛生学		科目ナンバー	S21105
担当者	大賀　早希			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	講義			
配当年次	1年	科目群	専門科目［食品と衛生］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士			

授業の概要	様々な衛生管理が行われているにもかかわらず大規模化・劇症化する食中毒、環境汚染に由来する食品汚染、流通の発達に伴う加工食品や食品添加物摂取量の増大、頻発する食品の偽装表示、食糧自給率の低下、輸入食品の増加等の実態を説明し、安全、安心な食生活を送るために必要な衛生に関する予防法や管理法を学ぶ。			
授業の到達目標	1．食品に関する安全面での現状認識を行う2．食中毒予防や衛生管理法を習得する			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	食品衛生学導入	大賀
第2回	食品衛生行政(食品安全行政/ 食品衛生関連法規を学ぶ)	大賀
第3回	食品と微生物	大賀
第4回	食品の変質(腐敗、変敗、変質の予防法を学ぶ)	大賀
第5回	食中毒総論(食中毒の定義、種類、発生状況を学ぶ)	大賀
第6回	細菌性、ウイルス性、自然毒食中毒	大賀
第7回	食品による感染症・寄生虫症を学ぶ	大賀
第8回	食中毒事件について	大賀
第9回	食品中の汚染物質(化学物質による汚染を学ぶ)	大賀
第10回	食品添加物について	大賀
第11回	食品の安全性について	大賀
第12回	食品衛生管理(日本のHACCPを理解する)	大賀
第13回	食品の器具と容器包装(素材と衛生・環境汚染を学ぶ)	大賀
第14回	食品表示基準について	大賀
第15回	総括	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	前もってテキストに目を通す。新聞やニュース等を見て、衛生に関する出来事に注意を向ける。	学習合計時間(h)	15
事後学習	不明な点について情報収集する。食品を購入する時は、表示を確認する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10　研究室		

テキスト	『イラスト　食品の安全性　第4版』小塚諭編　東京教学社　2023年　2500円(税抜き)（ISBN： 978-4-8082-6078-1）
参考文献等	『栄養科学イラストレイテッド食品衛生学第3版』、田﨑達明、羊土社、2024年、2900円（税抜き）、ISBN 978-4-7581-1372-4
成績評価基準	食品衛生に関する基礎的な知識を修得したもの。
成績評価の方法	小テスト（30%）、定期試験(70%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	食品衛生学実験	科目ナンバー	S21206
担当者	大賀　早希		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	実験		
配当年次	1年	科目群	専門科目［食品と衛生］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	最近、食中毒の増加や、ウィルスによる新たな感染症の出現、モラルの欠如による違法販売等の様々な問題が生じている。この実験では、微生物実験と化学実験を通じて、衛生に関する基本的な問題点を認識する。微生物実験では、身の回りの至るところに微生物が存在することを認識し消毒・滅菌の意義を理解することを目標とし、化学実験では、食品や水、環境等に関する衛生上の問題点を認識し、安全な食生活とは何かを理解できるよう、実験と講義を行う。			
授業の到達目標	1．消毒・滅菌の意義を理解し、衛生観念を高める2．衛生上の問題点を認識する3．安全な食生活とは何かを理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション（実験の説明、計画、次回の準備、）、手指の汚染度検査	大賀
第2回	空中落下菌・浮遊菌の測定、ATP測定法による手指の汚染度検査	大賀
第3回	細菌の形態観察(細菌を染色後、顕微鏡で観察する)	大賀
第4回	発酵乳、乳酸菌飲料中の乳酸菌数測定	大賀
第5回	水洗法によるフキンの細菌数測定	大賀
第6回	食品の衛生検査(各種条件での菌数の違いを確認する)	大賀
第7回	食中毒菌の検査(黄色ぶどう球菌、ｻﾙﾓﾈﾗ属菌の検出)	大賀
第8回	耐熱性・紫外線抵抗性試験(菌の耐熱性や紫外線抵抗性)	大賀
第9回	保存料(ソルビン酸) の抗菌力試験、薬剤感受性試験	大賀
第10回	保存料(ソルビン酸) の定量	大賀
第11回	食品中の添加物検査(発色剤、漂白剤を検出する)	大賀
第12回	食品の腐敗・変質試験(揮発性塩基窒素、ﾋｽﾀﾐﾝの検出)	大賀
第13回	水質試験(日常使用している水道水の水質検査を行う)	大賀
第14回	環境衛生試験(風速 感覚温度 空気汚染度 照度 騒音)	大賀
第15回	まとめ、総括	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	実験書に目を通し、実験内容を理解する。 実験の前にすべき内容を確認し、準備する。	学習合計時間(h)	20
事後学習	実験結果を観察、データをもとに考察し、レポートとして提出する	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	レポートや課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10　研究室		

テキスト	テキストなし、プリント配布
参考文献等	『食品環境実験50』藤田修三・山田恭正編　医歯薬出版　、　『食品衛生検査指針微生物・食品中の食品添加物分析法』(社)日本食品衛生協会
成績評価基準	授業の準備・実験・観察を行い、その結果をレポートとして適切にまとめることができたもの
成績評価の方法	レポート（60%）・受講態度・実験積極的参加度(40%)で総合的に判定する
ＧＰＡ基準	
備考	・実験の連絡や経過観察などはGoogle Classroomを使用する

科目名	栄養学総論	**科目ナンバー**	**S21108**
担当者	大賀　早希		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［栄養と健康］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	人間にとって､生命を維持するために欠かすことのできないのが､バランスよく栄養素を摂取することである｡そこで、正しい『食』についての理解を深め、健康的な生活を送るための的確な栄養指導を行うために、人間が生命や健康を維持するために欠かすことができない栄養素を､バランスよく、適切な量摂取するということについて、主な栄養素の消化・吸収、生理的な機能及び栄養評価の方法等を通して説明する。			
授業の到達目標	1. 適切な栄養素の摂取により、自らが正しい食生活を実践できる2. 健康に生きていくための、的確な食教育ができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	栄養の概念栄養学の歴史	大賀
第2回	食物の摂取調節機構	大賀
第3回	消化・吸収	大賀
第4回	栄養素の体内動態	大賀
第5回	炭水化物の栄養	大賀
第6回	食物繊維	大賀
第7回	脂質の栄養	大賀
第8回	脂肪酸について	大賀
第9回	たんぱく質の体内代謝	大賀
第10回	たんぱく質の栄養価	大賀
第11回	ビタミンの栄養	大賀
第12回	多量ミネラルの栄養	大賀
第13回	微量ミネラルの栄養	大賀
第14回	水の役割	大賀
第15回	エネルギー代謝について	大賀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	「栄養生化学Ⅰ」で学ぶ関連する内容について復習を行っておくこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	各回のプリントを見直して理解し、過去に出題された栄養士実力認定試験の問題が解けるようにしておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各回に行う確認問題について、その都度指導することにより、フィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10　研究室		

テキスト	『イラスト　基礎栄養学　第4版』大口健司　小野廣紀　田村明著　東京教学社　2024年　価格2600円（税抜き）　ISBN9784808260989
参考文献等	『日本人の食事摂取基準〈2020年版〉』　伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修　第一出版　2020年　2,800円(税抜き)（ISBN978-4804114088）『健康・栄養科学シリーズ　基礎栄養学　改訂第6版』　国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修　南江堂　2020年　2,900円(税抜き)
成績評価基準	生きていく上で必要な栄養素の適切な摂取により健康的な生活を送るための、栄養学的な基本となる考え方を理解できたものは合格とする。
成績評価の方法	小テスト（30%）、定期試験(70%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目　「栄養生化学Ⅰ」を受講すること。

科目名	応用栄養学		科目ナンバー	S21207
担当者	寺師　睦美			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	講義			
配当年次	1年	科目群	専門科目［栄養と健康］	
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	人の各ライフステージにおける心身の成長発育の特性および変化と、運動や生活環境における健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方を講義する。各ライフステージでの栄養評価法、疾患の定義と特徴、発症予防の基礎知識、生活習慣との関連について説明する。			
授業の到達目標	1. 各ライフステージの特徴、心身と生理機能の変化を理解できる　2. 運動や環境等に対応する適切な栄養管理の考え方を修得し説明できる　3. 給食施設における食物アレルギーの安全な対応について理解できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	栄養管理の基礎	寺師
第2回	各ライフステージの栄養(食事摂取基準の基本的な考え方と活用法)	寺師
第3回	妊娠期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第4回	授乳期の栄養管理(特性、問題点、乳汁栄養、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第5回	新生児・乳児期の栄養管理(特性、問題点、離乳、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第6回	幼児期の栄養管理(特性、問題点、保育所給食、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第7回	学童期の栄養管理(特性、問題点、学校給食、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第8回	思春期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)、小テスト	寺師
第9回	成人期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第10回	更年期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第11回	高齢期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)	寺師
第12回	高齢期の栄養管理(特性、問題点、疾患と生活習慣、栄養ケア)、小テスト又は課題	寺師
第13回	運動と栄養(身体活動と代謝、疾病と運動、栄養ケア)	寺師
第14回	環境と栄養(生活環境と代謝、災害時の支援、栄養ケア)	寺師
第15回	食物アレルギー対応、総括、課題学習（討議）	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として、病院や福祉施設等での実務経験を活かし、健常者の栄養管理の考え方や方法について教授する。		
事前学習	教科書を予習し、わからない語句を調べる。	学習合計時間(h)	30
事後学習	応用栄養学実習と関連付けて復習する。テーマに基づいて、調べたことをまとめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニパを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)		

テキスト	『Visual栄養テキストシリーズ 応用栄養学』　小間切美穂・来原晶子編集　中山書店　2020年　2700円(税抜)　(ISBN 978-4-521-74291-5)
参考文献等	『日本人の食事摂取基準(2020年度)』　伊藤貞嘉 ・佐々木敏監修　第一出版　2020年　2800円(税抜)　(ISBN 978-4-8041-1408-8)『保育の場で役立つ食物アレルギー対応―職種間連携から考える―』　小野内初美・朴賢晶編著者　建帛社　2020年　2300円(税抜)　(ISBN 978-4-7679-
成績評価基準	各ライフステージの特性と適切な栄養基準に応じた栄養管理、運動や環境における健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方、生活習慣との関連について理解し説明できるものは合格とする。
成績評価の方法	小テスト(20%)、課題(10%)、定期試験60分(70%)で総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	学内他学科・他専攻開放科目

科目名	応用栄養学実習	**科目ナンバー**	S22201
担当者	寺師　睦美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［栄養と健康］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程		

授業の概要	人の各ライフステージにおいて、食事摂取基準に基づいた栄養管理の考え方、献立作成と調理、食教育、健康増進及び疾病の発症予防に関する栄養管理方法を講義する。実習前に実習方法を説明し、結果の検討・考察・評価、レポート作成など栄養管理を行う実践的な方法を講義する。			
授業の到達目標	1. 各ライフステージの栄養基準に基づく献立作成と、適切な食品の選択及び調理方法を習得する。2. 実践的な栄養管理と食教育を行うことができる。3. 給食施設における食物アレルギーの安全な対応について理解できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	応用栄養学実習の意義と目的	寺師
第2回	乳児期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫))	寺師
第3回	離乳期栄養(調乳実習)	寺師
第4回	幼児期栄養(特性と問題点、食物アレルギー対応)	寺師
第5回	幼児期栄養(保育所給食実習)	寺師
第6回	幼児期栄養(保育所給食の基本、献立作成、調理の工夫)	寺師
第7回	学童期・思春期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫)	寺師
第8回	学童期・思春期栄養(学校給食実習)	寺師
第9回	成人期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫)	寺師
第10回	高齢期栄養(特性と問題点、献立作成、調理の工夫、媒体作成)	寺師
第11回	高齢期栄養(高齢者施設給食の基本、介護嚥下食実習)	寺師
第12回	食教育の基本(食教育の基本的な考え方、指導案と媒体の理解)	寺師
第13回	食教育の基本(指導案と媒体作成)	寺師
第14回	食教育(発表と評価)	寺師
第15回	総括	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、健常者の実践的な栄養管理の方法について教授する。		
事前学習	授業範囲を予習し、グループで課題に取り組む。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習内容をまとめて、レポートを作成する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニパを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)		

テキスト	『改訂 応用栄養学実習〔第2版〕-PDCAサイクルによる栄養ケア-』　柳沢幸江・松井幾子編著　2022年　2400円(税抜)　(ISBN 978-4-7679-0726-0)　『栄養士・管理栄養士をめざす人の 調理・献立作成の基礎』　坂本裕子・森美奈子編　化学同人　2021年　1500円(税抜)　(ISBN 978-4-7598-
参考文献等	『食品成分表』　香川明夫監修　女子栄養大学出版部　最新版　1,500円(税抜)　(ISBN 978-4-7895-1021-9) 『保育の場で役立つ食物アレルギー対応―職種間連携から考える―』　小野内初美・朴賢晶編著者　建帛社　2023年　2,300円(税抜)　(ISBN 978-
成績評価基準	各ライフステージの特性と栄養基準に応じた栄養管理の考え方、適切な食品の選択と調理方法の工夫を理解し修得したものは合格とする。
成績評価の方法	レポート作成(30%)、献立作成(10%)、課題演習(10%)、定期試験60分(50%)で総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×14回で実施する。

科目名	食事摂取基準・献立論	科目ナンバー	S21106
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	科目群	専門科目［栄養と健康］
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	食事摂取基準を理解し、食事摂取基準に基づいた給与栄養量の決定、食品構成への展開、および作成方法を学び、献立作成の基礎理論を演習を含めて修得する。			
授業の到達目標	1．食事摂取基準を理解し、説明することができる2．対象者別に食事摂取基準を用いて、給与栄養量を算出し、食品構成の成り立ちを説明することができる．3．献立作成の手順を説明することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	食事摂取基準【総論】(策定および活用の基本)	改元
第2回	食事摂取基準【総論】(策定および活用の基本、エネルギー・栄養素の指標)	改元
第3回	食事摂取基準【総論・各論】(各栄養素の策定方法)	改元
第4回	食事摂取基準【各論】(エネルギー)	改元
第5回	食事摂取基準【各論】(たんぱく質、脂質、炭水化物、エネルギー産生栄養素)	改元
第6回	食事摂取基準【各論】(ビタミン類、ミネラル類)	改元
第7回	対象特性別の食事摂取基準、生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	改元
第8回	食事摂取基準の活用まとめ	改元
第9回	献立作成の基礎(一汁三菜、作成手順)	改元
第10回	献立作成の基礎(食品構成作成方法)	改元
第11回	献立作成の基礎(献立作成方法)	改元
第12回	献立を作成するための知識(目安量、調味割合)	改元
第13回	献立を作成するための知識(もどし率、吸油率)	改元
第14回	献立を作成するための知識(献立表への記入方法と栄養評価)	改元
第15回	献立作成手順と栄養評価のまとめ	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する。また、演習においては必ず再度理解できたか確認をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	『日本人の食事摂取基準』伊藤貞嘉、佐々木敏他　第一出版株式会社　2025年　2,800円(税抜）（ISBN978-4-8041-1492-7)『日本食品標準成分表2020(七訂)』香川明夫、女子栄養大学出版部　2020年　1,400円(税抜）（ISBN978-4-7895-1020-2)『調理のためのベーシックデータ　第5版』香川
参考文献等	『食事摂取基準入門』佐々木敏　同文書院　2010年　1,500円(税抜）（ISBN978-4-8103-2)『わかりやすいEBNと栄養疫学』佐々木敏　同文書院　2005年2,500円（税抜）（ISBN978-4-8103-1316-1）
成績評価基準	食事摂取基準を理解し、説明することができ、献立作成の基礎を修得したものは合格とする
成績評価の方法	定期試験(90%)、献立等の提出物（10%）で成績を評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	Googleclassroom やUNIPAを使用した課題や資料、お知らせの配信などをおこないます。

科目名	献立作成演習	科目ナンバー	S21107
担当者	寺師　睦美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	学年指定なし	科目群	専門科目［栄養と健康］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	本科目は、給食の運営における献立作成の基礎を学ぶ科目である。食の専門家である栄養士には、人々が健康な生活を送るために、栄養、衛生、嗜好および経済性などを考慮した食事を提供するための知識と技能を修得することが求められる。対象者の特性や目標栄養量、嗜好、季節感、コストなどを考慮した献立を作成するために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。			
授業の到達目標	1.献立の意義と要件を理解し、献立作成に必要な基礎知識を説明るすことができる。 2.対象者の特性を正しく把握し、対象者に適切な献立を作成できる。 3.作成した献立を、科学的根拠をもとに正しく評価できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	献立作成の基礎知識：料理形式、調理法、味付け（調味％含む）、食品の選択、乾物の扱い、吸油率、行事食など	寺師
第2回	献立作成の手順と評価：献立の組み合わせ方、献立表・レシピの書き方、献立作成の手順、栄養量の評価	寺師
第3回	大量調理を学ぶための基礎：献立計画、3食の配分、1回または一日の献立表の作成、食品構成表を基にした献立作成	児玉
第4回	献立作成（1）週間献立計画、昼食の予定献立表、給与栄養目標量、献立計画	寺師
第5回	献立作成（2）各ライフステージに応じた献立作成の留意点	寺師
第6回	献立作成（3）保育所給食	寺師
第7回	献立作成（4）学校給食	児玉
第8回	献立作成（5）高齢者施設 まとめ	寺師
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士・栄養教諭の実務経験を活かして、献立作成について教授する。		
事前学習	事前に授業の予習を行った上で参加する。	学習合計時間(h)	15
事後学習	授業で学んだことを配付資料等を用いて復習する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業内で前回の授業に対する疑問点や課題のポイントを説明し、演習内容については個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	金曜日16：30～18：00		

テキスト	『栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎』（第2版）　坂本裕子・森美奈子　化学同人　2026年　1,800円(税抜）　（ISBN978-4-7598-2393-6）
参考文献等	『食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理成分表』　足立己幸・針谷順子　群羊社　2023年　2,400円(税抜）　（ISBN978-4-9061282-11-4）
成績評価基準	献立作成の基礎力が身についたものを合格とする。
成績評価の方法	課題への取組状況（60%）、小テスト（40%）により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	栄養指導論Ⅰ	**科目ナンバー**	S22110
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［栄養の指導］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	栄養指導論の具体的な教育目標は、厚生労働局長通知より「個人、集団および地域の栄養指導の基本的役割や栄養に関する各種統計について講義する。また、基本的な栄養指導の技術・方法を習得する。」と規定されている。よって、栄養指導論Ⅰでは、生活習慣病予防のためにいかに食行動の変容を支援していくか、栄養士が栄養指導業務に従事するために必要な知識と技術を、理論的に学ぶことが主体となる。また、栄養指導論Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰ・Ⅱに連動するものである。			
授業の到達目標	1. 栄養指導の概念について理解し、説明できる2. 栄養指導の歴史や法規を理解し、栄養士の役割を説明できる3. 栄養指導の方法論を理解し、栄養指導計画を立てることができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	栄養指導の概念(栄養指導の意義・目的)	改元
第2回	栄養指導の概念(栄養士と栄養指導、前半)	改元
第3回	栄養指導の概念(栄養士と栄養指導、後半)	改元
第4回	栄養指導の変遷(栄養指導・栄養改善の変遷、前半)	改元
第5回	栄養指導の変遷(栄養指導・栄養改善の変遷、後半)	改元
第6回	栄養指導の変遷(栄養指導の現状と展望、前半)	改元
第7回	栄養指導の変遷(栄養指導の現状と展望、後半)	改元
第8回	栄養指導マネジメント(栄養指導の進め方)	改元
第9回	栄養指導マネジメント(栄養指導の技術)	改元
第10回	行動変容に関する理論(行動変容の理論・モデル・概念)前半	改元
第11回	行動変容に関する理論(行動変容の理論・モデル・概念)後半	改元
第12回	行動変容に関する理論(カウンセリング)前半	改元
第13回	行動変容に関する理論(カウンセリング)後半	改元
第14回	栄養指導と情報の収集・処理(栄養指導に必要な情報)	改元
第15回	総論のまとめ、および栄養指導各論に向けて	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	『エスカベーシック栄養指導論第三版』古畑公、田中弘之他　同文書院　2025年　2300円（税抜）（ISBN987-4-8103-1531－8
参考文献等	特になし
成績評価基準	栄養指導の概念やそれに伴う知識や技術の理解、および習得が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(95%)、受講態度(5%)で成績を評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	Googleclassroom やUNIPAを使用した課題や資料、お知らせの配信などをおこないます。

科目名	栄養指導論Ⅱ		科目ナンバー	S22202
担当者	改元　香			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	講義			
配当年次	1年	科目群	専門科目［栄養の指導］	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士　選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	栄養指導論Ⅰで学んだ基礎知識・技法をもとに、ライフステージ・ライフスタイル別の生活習慣の実態と問題点を把握し、対象者の状況に応じた具体的な栄養指導の手法について講義する。栄養指導の目的を達成するために、健康増進につながる望ましい食習慣の確立や、適切な食事療法の実践などによるＱＯＬ(生活の質)の向上を目指して、食行動変容の実現を促す方法を講義する。また、望ましい食生活を実践するための食事計画の立案を通して、食に関する自己管理能力を育成する方法を講義する。			
授業の到達目標	1．対象者に対して計画的に問題を解決することができる2．対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる3．行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	ライフステージ別栄養指導(妊娠期・授乳期)	改元
第2回	ライフステージ別栄養指導(乳児期)	改元
第3回	ライフステージ別栄養指導(幼児期)	改元
第4回	ライフステージ別栄養指導(幼児期、保育所給食)	改元
第5回	ライフステージ別栄養指導(学童期・思春期)	改元
第6回	ライフステージ別栄養指導(成人期・高齢期)	改元
第7回	ライフスタイルと栄養指導(青年期・中高年期・高齢期の単身者)	改元
第8回	食物アレルギーと栄養指導	改元
第9回	健康障害と栄養指導(糖尿病とは)	改元
第10回	健康障害と栄養指導(糖尿病療養指導のための食品交換表の基礎)	改元
第11回	健康障害と栄養指導(糖尿病療養指導のための食品交換表の使い方)	改元
第12回	健康障害と栄養指導(糖尿病療養指導のための食品交換表の応用)	改元
第13回	健康障害と栄養指導(腎臓病とは)	改元
第14回	健康障害と栄養指導(腎臓病食品交換表の基礎)	改元
第15回	健康障害と栄養指導(腎臓病食品交換表の応用)	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	理解できなかったところは質問し、課された課題は必ず取り組む	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	『エスカベーシック栄養指導論第三版』古畑公、田中弘之他　同文書院　2300円（税抜）（ISBN978-4-8103-8）　『日本人の食事摂取基準(2025年版)』　菱田明・佐々木敏監修　第一出版株式会社2,700円(税抜)（ISBN978-4-8041-1312-8）　『糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版』
参考文献等	特になし
成績評価基準	対象者の状況に応じた栄養指導の知識や技法の理解、および習得が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	Googleclassroom やUNIPAを使用した課題や資料、お知らせの配信などをおこないます。

科目名	公衆栄養学	科目ナンバー	S21201
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	1年	科目群	専門科目［栄養の指導］
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	集団の健康問題が栄養管理上どのような因子に基づくのか、そしてその問題解決に栄養はどうあるべきなのかについて講義する。また、わが国の栄養摂取の変遷と国民の健康と栄養状態の関連性を含め、これからの公衆栄養活動について講義する。			
授業の到達目標	1．公衆栄養学の概念を理解し、説明できる2．わが国の栄養政策を理解し、説明できる3．栄養疫学を理解し、図表が示していることを説明できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	公衆栄養の概念(公衆栄養の意義、役割)	改元
第2回	公衆栄養の概念(公衆栄養学の発展)	改元
第3回	公衆栄養の概念(公衆栄養活動)	改元
第4回	健康・栄養問題の現状と課題(国民健康・栄養調査結果の概要)	改元
第5回	健康・栄養問題の現状と課題(食生活の変遷)	改元
第6回	健康・栄養問題の現状と課題(食糧需給と自給率)	改元
第7回	健康・栄養政策(わが国の公衆栄養行政)	改元
第8回	健康・栄養政策(公衆栄養関連法規、前半)	改元
第9回	健康・栄養政策(公衆栄養関連法規、後半)	改元
第10回	健康・栄養政策(栄養指導の指針、ツール)	改元
第11回	地域・職域における食環境整備(食物・情報へのアクセス)	改元
第12回	地域・職域における食環境整備(地域・職域における栄養士の業務等)	改元
第13回	地域・職域における食環境整備(災害時の栄養対策)	改元
第14回	世界の主要な健康・栄養問題(先進国・開発途上国)	改元
第15回	世界の主要な健康・栄養問題(栄養にかかわる国際機関)	改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、公衆栄養学について教授する。		
事前学習	テキストを読み、わからない語句を事前に調べておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	理解できなかったところは質問する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	『エスカベーシック　公衆栄養学概論　2026/2027』　古畑公・田中弘之編著　同文書院1,905円(税抜)（ISBN978-4-8103-1478-6）
参考文献等	特になし
成績評価基準	集団の健康問題を把握し、問題解決に栄養はどうあるべきなのか理解することができたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(100%)で成績を評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	Googleclassroom やUNIPAを使用した課題や資料、お知らせの配信などをおこないます。

科目名	給食管理	科目ナンバー	S21209
担当者	児玉　むつみ		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	1年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程		

授業の概要	給食の概念および意義を説明し、給食利用者に対応した栄養・食事管理に関する基礎的知識を講義する。更に特定給食施設で給食を運営するための計画から提供までの各種業務(食材管理、調理・作業管理、安全・衛生管理、施設・設備管理など)に関する基礎的知識を習得させる。			
授業の到達目標	1. 給食の意義および給食管理の概要について理解できる　2. 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた安全・衛生管理について理解できる 3. 献立計画を作成し、作業工程などの調理作業管理について理解できる、？大量調理における食物アレルギー対応について説明できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	第1章「オリエンテーション、給食の概念、特定給食施設	児玉
第2回	第6章給食の施設・設備管理(調理機器・器具・食器、レイアウト) 第7章保健・医療・福祉・介護における給食施設、委託	児玉
第3回	第2章給食の栄養・食事管理(利用者のアセスメント、給与栄養目標量、献立計画、利用者に対応した食事提供など)	児玉
第4回	第2章給食の栄養・食事管理(献立作成、食事管理の評価など)	児玉
第5回	第3章給食の安全・衛生管理(HACCP、安全・衛生教育)	児玉
第6回	第3章給食の安全・衛生管理(大量調理施設衛生管理マニュアル)	児玉
第7回	第3章給食の安全・衛生管理（ノロウイルス食中毒対策など）	児玉
第8回	第4章事故・災害対策(インシデントレポート、災害への対応)、食物アレルギー対応	児玉
第9回	第8章給食の組織・人事管理、帳簿、コンピューターの活用第9章給食の会計・原価管理	児玉
第10回	第8章給食の組織・人事管理、帳簿、コンピューターの活用第9章給食の会計・原価管理	児玉
第11回	第5章給食の調理管理(食材管理、発注など)	児玉
第12回	第5章給食の調理管理(献立指示書など)	児玉
第13回	第5章給食の調理管理(作業工程表・作業動線図)	児玉
第14回	第5章給食の調理管理(大量調理の特徴・品質、調味の標準化)	児玉
第15回	第5章給食の調理管理（調理システム、労働生産性など） まとめ、給食管理実習の運営管理計画	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理、食物アレルギー対応などについて教授する。		
事前学習	テキストや配布プリントを読み、事前学習を行うこと。また、卒業生のレシピ集などを見て参考にすること。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業では前回の学習内容について小テストを実施するので復習をしておくこと。2年生の給食管理実習ⅠおよびⅡにおける大量調理を喫食し、授業の予備知識を得ておくこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応し、次回授業時に全員に解説する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	改訂　給食の運営ー栄養管理・経営管理ー　逸見幾代・平林眞弓　建帛社2300円(税抜き)(ISBN978-4-7679-0663-8)給食管理実習・給食実務演習実習ノート　児玉むつみ　2024年　ビジネス実用社2980円（税抜き）（ISBN978-4-910911-11-3）
参考文献等	『毎日の調理』福司山エツ子他　鹿児島調理研究会 2026年3,000円（税抜）（ISBN978-4-902709-48-3） 八訂食品成分表　香川明夫監修　女子栄養大学　1400円 (税抜き)(978-4-7895-1019-6)
成績評価基準	給食の意義目的や特徴、給食運営に必要な大量調理・衛生管理について理解でき、次年度の給食管理実習の運営計画が概ね立案できたものは合格とする。また、大量調理における食物アレルギー対応のポイントについて説明できること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テスト(10%)、課題提出物(10%)により総合的に評価する。但し、レポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目 ・Google Classroom, Unipaを使用する。

科目名	調理学		科目ナンバー	S21108
担当者	木戸　めぐみ			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	講義			
配当年次	1年	科目群	専門科目［給食の運営］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士			

授業の概要	食べることは栄養摂取のためだけでなく、生活に潤いやリズムをもたらし、食事を共に摂ることで人間関係を良好にしたり、精神的な安定も得られる。このように、食は人間生活全体を豊かにする重要な役割を担っている。ものである。また、調理は食材を料理へと変える最終手段であり、その操作の適否は食べ物の美味しさに大きく影響する。調理学では、調理の概要や具体的な調理操作、食品の調理特性を中心に説明し、これらの理論を基礎とし、調理技術の向上やより良い食生活の実践に役立つ知識の習得を目指す。			
授業の到達目標	1. 調理学の意義や役割を理解する2. 調理操作全般について知る3. 食品素材別の調理法について知る			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	人間と食品（食べ物）：食文化と食生活、食嗜好と健康	木戸
第2回	調理の基本：調理操作の目的と分類、非加熱調理操作の原理・器具・機器	木戸
第3回	調理の基本：調理操作の目的と分類、加熱調理操作の原理・加熱条件、器具・機器、調味操作	木戸
第4回	植物性食品の調理科学と栄養：米、小麦・雑穀の特徴	木戸
第5回	植物性食品の調理科学と栄養：イモ類、豆類の特徴	木戸
第6回	植物性食品の調理科学と栄養：種実類、野菜類の特徴	木戸
第7回	植物性食品の調理科学と栄養：果実類、キノコ類、藻類の特徴	木戸
第8回	動物性食品の調理科学と栄養；食肉類の特徴	木戸
第9回	動物性食品の調理科学と栄養；魚介類の特徴	木戸
第10回	動物性食品の調理科学と栄養；卵類、牛乳・乳製品の特徴	木戸
第11回	成分抽出素材の調理科学：でんぷん、ゲル化剤の特徴	木戸
第12回	成分抽出素材の調理科学：油脂の特徴	木戸
第13回	調味料・香辛料・嗜好飲料の調理科学	木戸
第14回	供食・食卓構成・食事環境	木戸
第15回	まとめ	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で取り扱う項目について事前に調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回小テストを実施するため、その内容について復習を行う。いろいろな食品を実際に見たり、触ったり、調理し食べたりする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎時間の小テスト対して適宜授業の中で解説する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:30　研究室(本館505号室)		

テキスト	『調理科学 第2版』・中嶋 加代子ほか・東京教学社・2,600円(税抜き)・(ISBN978-4-8082-6101-6)
参考文献等	『八訂 食品成分表 2026』・香川明夫監修・女子栄養大学出版部・2026年・1,700円(税抜)・(ISBN：978-4-7895-1026-4) 『NEW 調理と理論 第二版』・山崎清子他・同文書院・2,800円(税抜)・(ISBN978-4-8103-1507-3)
成績評価基準	調理学の意義や役割を理解し、基本的な調理操作について理解できていると判断された場合は、合格とする。
成績評価の方法	定期試験(70%)、毎回の小テスト(30%)で判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipaを使用する。

科目名	調理学実習基礎	**科目ナンバー**	**S21109**
担当者	木戸　めぐみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義・実習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［給食の運営］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	様々な食品や調理法の調理特性を理解し、特徴を生かした調理操作、調味方法、調理手順、衛生管理や器具の使い方等について学び、基礎技術を身に付けられる実習内容とする。特に切る操作において、包丁の扱い方等日常の食事づくりで実践する態度を養い、目的に合った望ましい食事づくりができるように実習をする。			
授業の到達目標	1. 調理学実習の心得を意識して実習に臨むことができる2. 基本的な調理の知識・技術を身につけて調理ができる3. グループで協力し、他者との協調・協働を学び、安心・安全な料理を提供できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	調理学実習の心得　実習のための諸注意　レポートのまとめ方①、栄養計算の	木戸
第2回	講義 食品成分表の使い方、栄養・価格計算　実習レポートのまとめ方②	木戸
第3回	計量・食品の概量と廃棄、切り方の基礎①：オレンジソースのクレープ 他	木戸
第4回	計量・食品の概量と廃棄、切り方の基礎②：豚汁 他	木戸
第5回	日本料理特徴と調理1：白飯、味噌汁・魚の幽庵焼き 他	木戸
第6回	日本料理特徴と調理2：芋ごはん、吉野鶏のすまし汁 他	木戸
第7回	西洋料理特徴と調理1：スパゲッティミートソース 他	木戸
第8回	西洋料理特徴と調理2：ピラフ、若鶏のクリーム煮 他	木戸
第9回	中国料理の特徴と調理1：八宝菜、肉団子のスープ 他	木戸
第10回	中国料理の特徴と調理2：冷やし中華、麻婆豆腐 他	木戸
第11回	郷土料理の特徴と調理：さつますもじ 他	木戸
第12回	焼き菓子の基本：バターケーキ、クッキー	木戸
第13回	まとめ	木戸
第14回	―	―
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化し、実習の流れをイメージする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	毎時間ごとに学習した内容,や調べたことをノートにまとめ提出する。日々調理に携わり、食材の切り方等に慣れ技術の向上に努める。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:30　研究室(本館505号室)		

テキスト	実習プリント(事前配布) 『栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎』・坂本裕子・化学同人・(ISBN978-4-7598-1826-0)
参考文献等	『調理科学 第2版』・中嶋 加代子・東京教学社・2,600円(税抜)・(ISBN978-4-8082-6101-6) 『NEW 調理と理論 第二版』・山崎清子他・同文書院・2,800円(税抜)・(ISBN978-4-8103-1507-3)
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の要点を習得したと認められた者を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(30%)、実習中のグループでの活動・発表(40%)、実技試験(30%)で総合的に判定する。実技試験はレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・教育効果向上のため、2コマ(180分)×13回で実施する ・実習を欠席した場合でもレポートは必ず提出すること

科目名	調理学実習Ⅰ	科目ナンバー	S22203
担当者	木戸　めぐみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	1年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	健康で豊かな食生活を営むためには、科学的・合理的な調理法や調理技術を身に付けることが必要である。そのため、この実習では、日本料理、西洋料理、中国料理を中心とした各料理様式の特徴を学び、実習を通してより理解を深められる内容とする。また、郷土料理や行事食の体験し日本の食文化を継承することの意義について深める。さらに、地域の食材やその旬を意識し、一汁三菜を基本とした日常食への献立立案と実践力を育成する。			
授業の到達目標	1. 調理学実習の心得を意識して実習に臨むことができる2. 基本的な調理の知識・技術を身につけて調理ができる3. グループで協力し、他者との協調・協働を学び、安心・安全な料理を提供できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	調理学実習の心得と実習実施のための諸注意、基本的な調理操作の理論の確認	木戸
第2回	日本料理の特徴と調理1：親子丼他	木戸
第3回	菓子の特徴と調理：パウンドケーキ、ラッピング	木戸
第4回	日本料理の特徴と調理2：天ぷら他	木戸
第5回	西洋料理の特徴と調理1 ：コンソメスープ、魚のムニエル 他	木戸
第6回	西洋料理の特徴と調理2：ポタージュ、豚のカツレツ 他	木戸
第7回	中国料理の特徴と調理1：エビのチリソース煮 他	木戸
第8回	中国料理の特徴と調理2：五目焼きそば 他	木戸
第9回	郷土料理の特徴と調理：鶏飯他	木戸
第10回	西洋料理の特徴と調理3：クリスマス料理	木戸
第11回	日本料理の特徴と調理4：正月料理	木戸
第12回	魚食普及と魚料理講習会：魚の卸し方と調理	木戸
第13回	鍋物料理の特徴と料理：おでん 他	木戸
第14回	まとめ	木戸
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化し、実習の流れをイメージする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	毎時間ごとに学習した内容,や調べたことをノートにまとめ提出する。日々調理に携わり、食材の切り方等に慣れ技術の向上に努める。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:30　研究室(本館505号室)		

テキスト	実習プリント(事前配布) 『毎日の調理』・福司山エツ子他・鹿児島調理研究会・2026年・3,000円（税抜）・（ISBN978-4-902709-48-3）
参考文献等	『調理科学 第2版』・中嶋 加代子・東京教学社・2,600円(税抜)・(ISBN978-4-8082-6101-6) 『八訂 食品成分表 2026』・香川明夫監修・女子栄養大出版部・1400円(税抜)・(ISBN978-4-7895-1026-4)
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の要点を習得したと認められた者を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(30%)、実習中のグループでの活動・発表(40%)、実技試験(30%)で総合的に判定する。実技試験はレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・教育効果向上のため、2コマ(180分)×14回で実施する ・実習を欠席した場合でもレポートは必ず提出すること

科目名	栄養士導入教育	**科目ナンバー**	**S23101**
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	学年指定なし	**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	本演習では、栄養士を目指す学生が入学直後に職業理解を深め、2年間の学習意欲を高めることを目的とする。栄養士として活躍する卒業生や関連分野の専門職の講話を通じて職業イメージを具体化するとともに、学外実習に向けて必要な心構えや基礎知識を学ぶ。グループワークや自己分析を取り入れ、自分の将来像を描きながら学習の動機づけをおこなう。			
授業の到達目標	1．栄養士の職域や役割を理解し、自身の将来像を考えることができる。2．卒業生や専門職の講話から、栄養士としてのやりがいや課題を理解できる。3． 学外実習に向けて、医療従事者としての基本姿勢と心構えを身に付ける。4．2年間の学修計画を立て、自らの学びの方向性を意識できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション、栄養士を目指す意義（栄養士養成課程の学びの全体像、2年間の流れと導入教育の目的、自己評価）	A
第2回	栄養士の専門性と将来の展望、自己紹介	A
第3回	栄養士という職業の役割と社会的意義、栄養士・管理栄養士の職域（保育園、高齢者施設、医療施設、企業、行政など）を学ぶ	B
第4回	卒業生の講話、現場栄養士からやりがいや課題を聞き、栄養士の専門性を理解する	B
第5回	自己分析ワーク、自分の強みや弱み、学びたい分野を整理	A
第6回	グループワーク、理想の栄養士像を描く、将来像を共有し、仲間と学ぶ意欲を高める	A
第7回	学外実習に向けて：医療従事者としての心構え、感染予防、抗体検査の意義、守秘義務、倫理観	A
第8回	まとめと振り返り、2年間の学修計画を立て、導入教育の学びを総括	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養士・管理栄養士の実務経験を活かし、栄養士の使命感や倫理観について教授する		
事前学習	各回のテーマに関連する資料や講話予定者の職域について事前に調べ、栄養士という職業や自身の将来像について考えを整理した上で、演習やグループワークに備える。	学習合計時間(h)	10
事後学習	卒業生や専門職の講話、演習での学びを振り返り、栄養士としての役割ややりがい、求められる姿勢について理解を深めるとともに、自己分析やレポート作成を通して、2年間の学修計画や自身の将来像を	学習合計時間(h)	20
課題に対するフィードバックの方法	提出された振り返りやレポート、学修計画について、コメント等による講評を行い、必要に応じて授業内での共有や個別の助言を通してフィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応		
オフィスアワー	本科目はオムニバス形式で実施するため、オフィスアワーは代表教員が担当する。金曜日13：00～14：00研究室504		

テキスト	必要に応じて資料を配布します。テキスト購入は特にありません。
参考文献等	特になし
成績評価基準	授業への主体的な参加、講話や演習内容を踏まえた振り返り・レポート、自己分析に基づく将来像および学修計画の整理状況を総合的に評価する。
成績評価の方法	授業への主体的な参加状況（30%）、講話や演習内容を踏まえた振り返り・レポート（40%）、自己分析に基づく将来像および2年間の学修計画の整理状況（30%）を総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	A：専攻教員　B：外部講師 GoogleclassroomやUNIPAを使用して資料や課題の配信を行います。

科目名	くらしとお茶	**科目ナンバー**	**S23101**
担当者	木戸　めぐみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次		**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択：栄養士、栄教免　　選択必修：日本茶アドバイザー		

授業の概要	茶は2千年以上にわたり、人類に好まれてきた歴史のある飲み物である。多くの研究により、茶の効能・効果が明らかになり、健康飲料として認知される一方、茶の淹れ方や文化を知らない人も増えている。この授業では、茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法に関する講義や、品質検査・鑑定法、お茶の淹れ方等の実習を行う。これらの学びを通して日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけ、茶文化の発展と普及に寄与する人材を育成する。			
授業の到達目標	1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解できるようになる2. 茶に関する知識と理解を深める			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(日本茶アドバイザー認定までの説明)	木戸
第2回	歴史(日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ)	松﨑
第3回	茶の利用(茶を使った料理や活用法について学ぶ)	木戸
第4回	茶業のあらまし(茶の生産、消費、流通等を学ぶ)	徳田
第5回	茶の栽培(種類別栽培・方法を学ぶ)	徳田
第6回	茶の製造(製造方法を学ぶ)	徳田
第7回	茶の化学(化学成分、品質等を学ぶ)	木戸
第8回	茶の健康科学(効能、効果等を学ぶ)	大賀
第9回	茶の品質検査と鑑定(官能検査法を学ぶ)	中禮
第10回	茶の品質検査と鑑定(鑑定技術を学ぶ)	中禮
第11回	インストラクション技術	改元
第12回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとして必要な項目)	中禮
第13回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとしての実技)	中禮
第14回	インストラクション技術(茶の淹れ方)	中禮
第15回	インストラクション技術(茶の鑑定の実際)	中禮

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業前にテキストを読んでおく。課題や模擬試験に取り組み、自ら学習する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	日常生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題が課された場合は、担当者が個別に指導を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	集中講義開講期間　9：00～16：30 （各講義室）		

テキスト	「日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ」ＮＰＯ法人日本茶インストラクター協会(協会による実習費に含まれるため､テキスト代として単独販売は行わない)
参考文献等	「シリーズ《食品の科学》茶の科学」村松敬一郎編、朝倉書店
成績評価基準	日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解し、茶に関する知識と理解が深められた者を合格とする。
成績評価の方法	定期試験60分(70％)と実技テスト(30％)で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	夏季休暇集中講義

科目名	情報機器演習	**科目ナンバー**	**S22101**
担当者	青木　俊介		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	情報機器の操作		
授業形式	演習		
配当年次	1年	**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免　　選択：栄養士		

授業の概要	コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、仕事や生活に情報機器を活用できることを目指す。			
授業の到達目標	1.ＩＣＴの基本的な操作技術を習得する2.インターネットを理解し活用できるようになる3.コンピュータを仕事や生活の道具として活用できるようになる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連		◎		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション～情報機器とは	青木
第2回	キーボード練習	青木
第3回	ブラウザを使おう ～ ネット検索のコツ	青木
第4回	電子メールを使おう	青木
第5回	Wordを使ってみよう(1)	青木
第6回	Wordを使ってみよう(2)	青木
第7回	Wordを使ってみよう(3)	青木
第8回	Excelを使ってみよう(1)	青木
第9回	Excelを使ってみよう(2)	青木
第10回	PowerPointを使ってみよう(1)	青木
第11回	PowerPointを使ってみよう(2)	青木
第12回	行事イベントポスターを作ろう	青木
第13回	オンライン会議を体験しよう	青木
第14回	情報セキュリティについて知ろう	青木
第15回	メディアリテラシー	青木

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識や操作を確認し、必要に応じて事前に調べたり、練習したりしておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・復習し、理解や操作の習得が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。		
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。		
オフィスアワー	水曜、木曜のお昼休み(12:20-13:16) @研究室(西館417室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『30時間でマスター Office2021』　実教出版企画開発部　実教出版　2022年　1045円（税抜き）　ISBN978-4-407-35937-4『学校教育と情報機器』　堀田博史・森田健宏　ミネルヴァ書房　2018年　2200円（税抜き）　ISBN978-4-623-081081-3
成績評価基準	・コンピュータとネットワークの仕組みを知ること　・セキュリティに配慮した電子情報や代表的なアプリケーション及び機器の利用法を身につけること
成績評価の方法	授業内レポートや制作物(100%)で総合的に判断する。
ＧＰＡ基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること（提出の仕方は授業で説明を行う）・コンピュータを持参する